

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人 慈恵大  
理事長 栗原 敏

東京慈恵会医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 24 年度の業務  
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	147人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	642人	35人	650. 6人	看護補助者	68人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	9人	0人	9. 0人	理学療法士	18人	臨床検査技師	106人
薬 剤 師	67人	1人	67. 8人	作業療法士	7人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0. 0人	視能訓練士	15人	そ の 他	0人
助 産 師	18人	0人	18. 0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	1,006人	7人	1,010. 3 人	臨床工学技士	21人	医療社会事業従事者	6人
准 看 護 師	1人	0人	1. 0人	栄 養 士	24人	そ の 他 の 技 術 員	154人
歯科衛生士	4人	0人	4. 0人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	217人
管理栄養士	17人	2人	18. 8人	診療放射線技師	68人	そ の 他 の 職 員	4人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	830. 9人	0. 6人	831. 5人
1日当たり平均外来患者数	2,927. 3人	54. 5人	2,981. 5人
1日当たり平均調剤数	入院 982 剤	外来 675 剤	合計 1657 剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術（白内障に係るものに限る）	36人
末梢血単核球移植による血管再生療法	0人
実物大臓器立体モデルによる手術支援	2人
IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル腹腔内反復投与療法 胃切除後の進行性胃がん(腹膜に転移しているもの、腹腔洗浄細胞診が陽性であるもの又はステージⅡ若しくはⅢであって肉眼型分類が3型(長径が八センチメートル以上のものに限る。)若しくは4型であるのものに限る。)	1人
パクリタキセル静脈内投与、カルボプラチン静脈内投与及びベバシズマブ静脈内投与の併用療法(これらを三週間に一回投与するものに限る。)並びにベバシズマブ静脈内投与(三週間に一回投与するものに限る。)による維持療法 再発卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	1人
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	11人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	進行膵臓癌及び胆道癌に対する塩酸ゲムシタピン併用WT1ペプチドワクチン療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 標準療法である塩酸ゲムシタピンとWT1を標的としたWT1ペプチドワクチンの第I相臨床試験を平成22年度に登録終了。当院では手術が可能となった1例を含め長期生存例と全生存期間の延長を認めた。現在、長期生存例に再発予防として実施継続中。			
医療技術名	進行膵癌及び胆道癌に対する塩酸ゲムシタピン併用WT1ペプチドパルス樹状細胞療法 第I相臨床試験	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 標準療法である塩酸ゲムシタピンと樹状細胞にWT1ペプチドをパルスした免疫療法を併用した第I相臨床試験を実施中である。			
医療技術名	切除不能進行膵臓癌に対するゲムシタピン併用WT1ペプチドワクチン化学免疫療法とゲムシタピン単独療法のランダム化第II相臨床試験	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 標準療法である塩酸ゲムシタピンとWT1を標的としたWT1ペプチドワクチンの第I相臨床試験を平成22年度に登録終了。安全に実施できたため、有効性を確認する目的で、ランダム化試験を実施中。本試験は第II相施設共同臨床試験である。			
医療技術名	超音波装置を用いた急性期脳梗塞患者の頭蓋内血管評価	取扱患者数	約200人
当該医療技術の概要 経頭蓋超音波を用いて急性期脳梗塞患者の頭蓋内血行動態を把握する。			
医療技術名	パーキンソン病やパーキンソン病類似疾患での嗅球体積評価	取扱患者数	約60人
当該医療技術の概要 頭部MRIを実施することで上記患者の嗅球体積を評価する。その上で嗅覚検査を実施し、嗅覚障害との関連をみていく。			
医療技術名	抗CD20抗体(Rituximab)を用いたABO血液型不適合腎移植	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ABO血液型不適合腎移植では、抗血液型抗体が関与した拒絶反応を予防するため、従来、従前後に脾臓摘出術(脾摘)が行われてきた。脾摘に伴う侵襲および長期安全性に関する懸念があり、脾摘を行わない新たな治療法としてRituximab術前投与が行われるようになり、当院でも実施している。			
医療技術名	Continuous Glucose Monitoring (CGM 連続式皮下グルコース測定)	取扱患者数	約100人
当該医療技術の概要 CGM機器を用いて、糖尿病診療の最適化、さらには24時間を通した薬剤の薬効について臨床試験を実施している。			
医療技術名	難治性造血器悪性腫瘍に対する自家末梢血幹細胞移植併用の大量化学療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 再発性悪性リンパ腫や多発性骨髄腫に対して自家末梢血幹細胞移植併用の大量化学療法を施行した。			
医療技術名	難治性造血器悪性腫瘍に対する同種造血幹細胞移植	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 難治性造血器悪性腫瘍に対して骨髄破壊的前処置または骨髄非破壊的前処置を行い、同種造血幹細胞移植を施行した。			
医療技術名	腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 低侵襲・再発率低下を目的として、腹壁癒痕ヘルニア修復術を腹腔鏡下に施行している。開腹への移行は1例(5.9%)のみで、術後平均在院日数は7.1日、再発はなく、良好な成績を得ている。			

## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

医療技術名	傍ストーマヘルニアに対する腹腔鏡下修復術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 傍ストーマヘルニアはストーマ保有者の5～35%に発症する晩期合併症で、当院では専用メッシュを用いた腹腔鏡下修復術を施行し、良好な成績を得ている。			
医療技術名	肛門括約筋温存術後の残存排便機能評価	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 排便造影検査や256ch 3D-manometryを用いた肛門機能検査を施行し、肛門機能の異常を他覚的に評価・診断し、括約筋温存術後の機能評価を施行している。			
医療技術名	High-resolution manometry (HRM)を用いた食道運動機能疾患の病態評価	取扱患者数	58人
当該医療技術の概要 HRMによりアカラシアや食道運動機能障害の診断、噴門形成術前後の運動機能等を評価し、つかえ感、非心源性胸痛に対する原因究明に役立っている。			
医療技術名	24時間多チャンネルインピーダンス・pHモニター検査 (MII-pH)を用いた胃食道逆流症 (GERD)の病態評価	取扱患者数	63人
当該医療技術の概要 MII-pHを用いることにより、従来のpHモニタリング検査単独では診断不可能であった非びらん性胃食道逆流症の適確な診断と手術適応の判定が可能となった。			
医療技術名	食道裂孔ヘルニア、食道アカラシアに対するReduced port surgery (RPS)	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 食道裂孔ヘルニア・食道アカラシア患者に対して術創の整容性に優れているRPSを、症例を選んで導入している。手術時間は延長するものの、手術成績は従来法と遜色ない。			
医療技術名	メッシュを用いた食道裂孔修復	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 教室では、①AFP分類でA2以上の食道裂孔ヘルニア、②75歳以上、③BMI 28以上の患者に対してメッシュを用いて食道裂孔の補強を行っている。			
医療技術名	胃切除後患者における13C呼気試験を用いた消化管機能検査	取扱患者数	55人
当該医療技術の概要 13C呼気試験法を用いた胃排出能、消化吸収能検査は簡便、非侵襲的に詳しく生体機能を調べられるのが特徴である。平成24年度に胃切除後患者55名に対し機能障害の評価を行った。			
医療技術名	食道癌手術におけるサーモグラフィーを用いた再建臓器の血流評価	取扱患者数	約30人
当該医療技術の概要 食道切除術後縫合不全の主因は再建臓器の血流障害である。術中サーモグラフィーを用いて再建臓器の血流を評価、再建臓器における至適吻合部位を決定している。			
医療技術名	食道癌手術における反回神経モニタリングの有効性評価	取扱患者数	約30人
当該医療技術の概要 食道切除術後の反回神経麻痺は20%～40%の頻度で生じ、嚥声や嚥下障害の原因となる。術中に反回神経をモニタリングし、同神経障害を予測することで術後管理に活用している。			
医療技術名	膵臓癌治療におけるメシル酸ナファモスタット動注療法と塩酸ゲムシタピン、及びTS-1併用療法	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 メシル酸ナファモスタットによる薬剤誘導性のNF-κBを抑制することで膵臓癌に対する標準治療薬である塩酸ゲムシタピンの感受性を改善し、またTS-1を併用することでさらなる治療効果を期待する方法である。生存期間の延長とclinical benefit responseの改善がend pointである。			
医療技術名	切除不能胆道癌における塩酸ゲムシタピン、シスプラチン、及びTS-1併用療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 切除不能胆道癌における標準治療である塩酸ゲムシタピン+シスプラチンの併用療法にTS-1を併用することでさらなる治療効果を期待する方法である。生存期間の延長とclinical benefit responseの改善がend pointである。			

## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

医療技術名	生体肝移植	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 肝移植以外に治療のない進行性不可逆性肝疾患患者に対して、根治を目的としてその健康な三親等内の血縁者あるいは配偶者から肝臓の一部の提供を受けて、生体肝移植を行う。血液型不適合症例にも準備は整っている。			
医療技術名	肝臓外科手術における画像ナビゲーション	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要 最新の画像処理技術を用いてCT画像データから肝臓の3次元画像及びその容積を算出し、より客観的に様々な手術方法について最善の治療法の検討が可能となる。この術前ナビゲーションによって肝切除手術におけるより安全かつ最適な治療方針を導くことができる。			
医療技術名	完全胸腔鏡下肺癌切除術	取扱患者数	101人
当該医療技術の概要 肺癌の根治手術が従来大きな開胸下に行われていたのに対し、小さな切開創から入れたカメラによる画像と、同じく小さな創から入れた器械により同等の手術を行う。手術の創が小さいのみならず、術後の疼痛が著しく軽く術後の合併症が少なく、回復や社会復帰が速い。術後成績も優良である。			
医療技術名	完全胸腔鏡下胸腺切除	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 従来前胸部の胸骨を大きく切開することで行われていた胸腺切除を、側胸部に数ヶ所の創のみから行う手術手技。術創が小さく、傷が目立たず、しかも回復が早い。			
医療技術名	難治気胸根治術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 高度の慢性肺疾患と肺機能低下のため開胸手術が行えなかった自然気胸に対して、胸腔鏡を用いて行う高度な手術。術後早期に退院することができ、退院後も良好な経過を取ることができる。			
医療技術名	超音波気管支下生検術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 気管支周囲の占拠性病変の診断のために開発された新しい手技。気管支鏡装置に超音波診断機を組み込み、気管～気管支壁を介して超音波のガイド下に針を刺し、組織の生検を行う。			
医療技術名	胸腹部大動脈瘤に対する枝付きステントグラフト内挿術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 従来では、開胸・開腹により、大動脈の血流を遮断し、人工血管置換術による治療法しか手立てが無かった胸腹部大動脈瘤に対し腹部内臓分枝にカバースtentやステントによる枝を付け、ステントグラフト内挿術による瘤の空置を行う手術法。			
医療技術名	弓部大動脈瘤に対するRIBS (Retrograde in situ branch surgery) によるステントグラフト内挿術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 従来では、開縦隔し、脳循環を維持しながら循環停止による人工血管置換術が一般的で適応が限られていた弓部大動脈瘤に対し、RIBS (Retrograde in situ branch surgery) の手技を応用し、循環停止することなく、ステントグラフト内挿術により瘤の空置を行う手術法。			
医療技術名	弓部大動脈瘤に対するChimney法によるステントグラフト内挿術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 従来では、開縦隔し、脳循環を維持しながら循環停止による人工血管置換術が一般的で適応が限られていた弓部大動脈瘤に対し、Chimney法の手技を応用し、循環停止することなく、ステントグラフト内挿術により瘤の空置を行う手術法。			
医療技術名	腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 先天性腎盂尿管移行部狭窄症に対して、腹腔鏡を用いて腎盂形成、腎盂尿管吻合をおこなう。			
医療技術名	人工膝関節置換術におけるカスタムカッティングデバイスの研究開発	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 人工膝関節置換術において、患者個々の膝関節および骨の状態をCTならびにMRI撮像し、専用のソフトを用いて3次元的な術前計画を立て、理想的な骨と人工膝関節の設置位置に製造されたカスタムカッティングデバイスが、手術計画に合致した位置に装着できるか、術中ナビゲーション装置や専用の計測器を用いて正確性、有効性、適合性を検証し、さらに開発を行う。			

## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

医療技術名	人工膝関節置換術におけるペイシエント・マッチド・カッティングガイドの臨床評価	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要			
人工膝関節置換術において、患者個々の膝関節および骨状態のデータに基づいて製造されたペイシエント・マッチド・カッティングガイドが、手術計画に合致した位置に装着できるか、その適合性について評価する。術後は単純X線像を用いて検証する。			
医療技術名	高位脱臼型股関節症に対する大腿骨短縮骨切り術を併用した人工股関節置換術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
高位脱臼型股関節症に対して通常の方法で人工股関節置換術を行うと、下肢長が延長しすぎて神経麻痺などの合併症を生じてしまう。そこで、大腿骨転子下部を2~5cmにわたって切除する短縮骨切り術を併用しながら人工股関節置換術を実施する技術である。			
医療技術名	同種骨移植を併用した人工股関節再置換術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
人工股関節再置換術では、既存のインプラント抜去後にしばしば高度の骨欠損を合併し再建が困難となる。そこで、このような骨欠損を伴う骨盤あるいは大腿骨を、同種骨移植を用いて補強または再建しながら新たな人工関節コンポーネントを設置して人工股関節再置換術を行う技術である。			
医療技術名	同種骨移植を用いた脊椎固定術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要			
一般に脊椎固定術における骨移植には自家骨(局所骨や腸骨)が使用されるが、再手術例や高度変形により骨盤までの固定が必要な症例では、自家骨を使用出来ない。そのような症例では、同種骨を用いた脊椎固定術を行っている。			
医療技術名	小児や成人の重度股関節障害に対する骨盤骨切り術(または臼蓋形成術)と大腿骨切り術の同時併用法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
小児では先天性股関節脱臼後に生じた高度変形や重症ペルテス病など、成人では変形が高度な二次性変形性股関節症が対象となる。通常は骨盤側あるいは大腿骨側どちらか一方の手術が行われるが、重症変形症例では両方の手術の同時併用法が必要となる。			
医療技術名	術中CT、および術中CT画像を用いた脊椎ナビゲーション手術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
側弯症などの脊柱変形手術では術中(全身麻酔下、手術体位)に手術室内に装備された多軸型CT装置を用いて3次元のCT画像を撮像し、それをもとにナビゲーション手術を行っている。			
医療技術名	感染人工関節に対する関節運動機能を付与した抗菌薬含有セメントスペーサー法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
股、膝などの人工関節置換術後に深部感染を生じた症例には、一期的に病巣搔爬とインプラント(一部または全部)の抜去、二期的に関節再建を行う治療法が行われるが、両手術間の待機期間中に関節運動機能を付与した特殊な抗菌薬含有セメントスペーサーを応用する治療技術である。			
医療技術名	足のスポーツ傷害に対する関節鏡視下手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
長母趾屈筋腱の腱鞘炎、三角骨障害を中心とした後方インピンジメント症候群や関節内遊離体、距骨外側突起骨折などに対して関節鏡視下手術を行い、術後早期のスポーツ復帰を可能にしている。			
医療技術名	Onyx液体塞栓物質LDを用いた脳動静脈奇形塞栓術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
国内でも施設限定で使用可能な液体塞栓物質を用いて、脳動静脈奇形のより安全な治療を施行している。			
医療技術名	頭蓋内ステントを用いた脳動脈瘤塞栓術	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要			
国内使用が認可されて間もない頭蓋内血管に使用可能なステントを用いて、広頸な脳動脈瘤の塞栓術を施行している。			

## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

医療技術名	虚血性脳卒中の血管内治療：機械的血栓除去術	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 急性期脳梗塞の治療としてtPAの適応外や内頸動脈や中大脳動脈主幹部の閉塞症例に対して、機械的血栓除去術を行っている。カテーテルを利用して閉塞部に到達し、吸引もしくは機械的摘出を行うことにより再開通を試みる治療法である。			
医療技術名	グリオーマ幹細胞と樹状細胞の融合細胞を用いた免疫療法	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要 神経膠腫は外科切除と放射線、化学療法を加えてもなお悪性で予後不良の疾患である。当科ではグリオーマ幹細胞と樹状細胞の融合細胞を用いた活性化型グリオーマワクチンの開発を行い、臨床応用している。			
医療技術名	術中DynaCTによる再構成ナビゲーション下神経内視鏡腫瘍摘出術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 手術室でDynaCTを術中に撮影し、再構成した画像を利用してナビゲーション下で腫瘍を摘出する。神経内視鏡下で行い、低侵襲で確実に全摘出することができる。			
医療技術名	イリザロフ型小型創外固定器による関節拘縮の治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 手指用の小型創外固定器を用いて、従来の方法に比較してはるかに少ない侵襲で拘縮解除が可能である画期的な方法であり、良好な成績が安定して得られている。			
医療技術名	顔面骨前方移動術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 顔面骨発育障害に対し、骨切りと延長器装着により、前方への仮骨延長を行う新しい方法であり、今後適応症例が増加することが予測される。			
医療技術名	実物大臓器立体モデルによる手術支援	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 骨格に著しい変形または欠損を伴う症例において、三次元画像のみで難易度の高い手術をシミュレーションすることは困難である。これに対して、本技術は、患者の骨格の実物大であって、かつ実際の手術器具を使用した手術シミュレーションが可能な立体モデルを作製することにより、当該領域における高難度手術についての安全性および正確性が向上する。			
医療技術名	血管柄付神経移植による顔面神経の再建	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 悪性腫瘍摘出で顔面神経切除を行った症例に、外側広筋の運動枝を血管柄付で移植し、良好な神経回復を得ている。			
医療技術名	感染性心内膜炎(僧帽弁位)に対する弁形成術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 僧帽弁の感染巣を切除後、自己心膜パッチ、人工腱索、人工弁輪を用いて弁機能・形態を正常化させるとともに感染を終結する。			
医療技術名	人工弁挿入不能例に対し自己心膜にて作成のNormo弁を使用する	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 人工弁置換症例で狭小弁輪(従来の人工弁が入らない)、人工弁挿入を希望しない患者に日本発の新しいコンセプトのNormo弁(自己心膜より作成)を挿入する。			
医療技術名	ステントグラフト挿入後のリーク症例に対する弓部置換術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 弓部大動脈に対するステントグラフト挿入後のリーク症例に対して、破裂を予防する目的にて弓部置換+エレファントトランク法を用いて治療する。			
医療技術名	心房細動に対する外科治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 心臓手術患者で、心房細動を合併する患者に対して洞調律を目指してMaze手術を行う。			
医療技術名	自己肺動脈グラフトによる大動脈弁置換術(ロス手術)	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要 小児・先天性大動脈弁に対して、代用人工弁置換にかわる自己肺動脈を用いた弁置換術。抗凝固療法、人工弁関連合併症の回避が期待される。			



## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

医療技術名	修正大血管転位症に対するダブルスイッチ術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 修正大血管転位症に対する解剖学的修復術であり、心房内血流転換術(セニング術)及び大血管スイッチあるいはラステリー手術を行う。			
医療技術名	左心低形成症候群に対する外科治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 左室低形成僧帽弁・大動脈弁閉鎖等を伴う左心低形成症候群に対する多段階的心内修復術			
医療技術名	GOG0213婦人科腫瘍学グループ プラチナ感受性の再発卵巣癌、原発性腹膜癌および卵管癌に対する二次的腫瘍減量手術の有効性、およびカルボプラチンとパクリタキセルの併用療法にベバシズマブを併用維持療法として使用した場合の有効性を検討するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 プラチナ感受性の再発卵巣癌、原発性腹膜癌または卵管癌の患者に対して、Second lineにベバシズマブを併用、さらにベバシズマブの維持療法を行うことにより、パクリタキセルとカルボプラチン単独のsecond line化学療法と比較して、全生存期間が延長するか否かを判断する。			
医療技術名	北関東婦人科がん臨床試験コンソーシアムGOTIC-001 婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構JGOG3019 上皮性卵巣癌・卵管癌・腹膜原発癌に対するPaclitaxel毎週点滴静注＋Carboplatin 3週毎点滴 静注投与 対 Paclitaxel毎週点滴静注＋Carboplatin 3週毎腹腔内投与のランダム化第Ⅱ / Ⅲ相試験	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 上皮性卵巣癌・卵管癌・腹膜原発癌患者に対するfirst.line 化学療法としてのPaclitaxel 毎週点滴静注(IV)投与 およびCarboplatin3 週毎IV 投与の併用療法(dd.TCiv 療法)とPaclitaxel 毎週IV 投与およびCarboplatin3 週毎腹腔内(IP) 投与の併用療法(dd.TCip 療法)の有効性および安全性を比較し、Carboplatin IP 投与の意義を検討することである。			
医療技術名	角膜、結膜の扁平上皮内癌に対する5-フルオロウラシルの点眼治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 角結膜の扁平上皮癌に対する低侵襲の抗癌剤点眼治療が近年海外で注目されている。5-FUによるパルス点眼療法を我が国では当院で初めて使用を開始した。副作用もなく良好な結果をえている。			
医療技術名	非動脈炎性前部虚血性視神経症に対するウノプロストン点眼治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 非動脈炎性前部虚血性視神経症は現在有効な標準的治療法がない。本症に対して、強力な血管収縮物質であるエンドセリン-1の抑制効果を持つウノプロストンの点眼治療を開始した。当院が中央機関となり、多施設共同ランダム化並行群間比較試験として立ち上げ、現在、副作用もなく進行中である。			
医療技術名	眼内リンパ腫に対するメトトレキサート眼内注入治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 原発性眼内リンパ腫および全身性リンパ腫からの眼内転移を対象に、メトトレキサートの眼内注入療法を行ない、その治療効果・有効性を検討する。			
医療技術名	眼内新生血管疾患および黄斑浮腫に対する抗VEGF抗体(ベバシズマブ)眼内注入治療	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要 難治性眼疾患である脈絡膜新生血管、血管新生緑内障、黄斑浮腫に対して非常に高い治療効果を発揮している。			
医療技術名	中心性漿液性脈絡網膜症に対する低照射エネルギー光線力学的治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 これまで治療法が確立されていなかった中心性漿液性脈絡網膜症に対し、非常に高い治療効果が得られている。			

## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

医療技術名	術中CTナビゲーションシステムを用いた経鼻内視鏡手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 翼口蓋窩や頭蓋底、眼窩内の病変等に対して、経鼻内視鏡手術を実施している。術中に撮影したCT画像をナビゲーションシステムに取り込み、解剖学的危険部位をリアルタイムに把握することで、低侵襲な内視鏡手術が可能である。			
医療技術名	腎機能不良な頭頸部癌患者を対象としたSatraplatinと放射線同時併用療法の第I/II相臨床試験	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 腎機能不良な頭頸部扁平上皮癌患者を対象に、放射線照射と同時併用する経口プラチナ製剤Satraplatin療法の最大耐用量(MTD)、用量制限毒性(DLT)を推定し、推奨用量(RD)を決定するための第I/II相臨床試験中である。			
医療技術名	上肢麻痺に対する経頭蓋磁気刺激療法と集中的リハビリテーション	取扱患者数	92人
当該医療技術の概要 上記内容にて体系化した世界初の手法。			
医療技術名	失語症に対するfMRIを用いた経頭蓋磁気刺激療法と集中的リハビリテーション	取扱患者数	34人
当該医療技術の概要 上記内容にて体系化した世界初の手法。			
医療技術名	SPECT統計画像解析に基づいた高次脳機能障害のリハビリテーション	取扱患者数	76人
当該医療技術の概要 上記手法にて外来リハビリを施行している。			
医療技術名	肝臓線維化活性化反応を反映する血漿TGF- $\beta$ LAP-Dの定量	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 慢性および急性肝疾患における肝臓線維化活性をリアルタイムでモニターするために、患者血漿TGF- $\beta$ LAP-Dを測定した。			
医療技術名	空腹時13C-glucose呼気試験による肝臓インスリン抵抗性の診断	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 肝臓インスリン抵抗性を早期に診断するため、空腹時13C-glucose呼気試験を開発し、約50名の患者さんに実施した。			
医療技術名	超音波エコーガイド下末梢神経ブロック	取扱患者数	236人
当該医療技術の概要 末梢神経を超音波エコーで描出しながら、神経ブロックを行う方法。			
医療技術名	気管支鏡補助下の経皮的気管切開術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 集中治療部での経皮的気管切開術施行時には、手技の安全と研修医教育のために気管支鏡補助下にて行っている。			
医療技術名	クエン酸を抗凝固薬として使用した持続血液浄化療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 術直後や出血傾向のある患者での持続血液浄化療法施行時には、出血リスクをなくすため浄化装置内だけの抗凝固作用を実現するためクエン酸を用いている。			
医療技術名	共焦点内視鏡を使用した消化管腫瘍診断	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 Confocal laser endomicroscopyを使用し、通常内視鏡検査を行いながら、顕微鏡レベルの診断を行う。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	132人	・膿疱性乾癬	0人
・多発性硬化症	101人	・広範脊柱管狭窄症	12人
・重症筋無力症	190人	・原発性胆汁性肝硬変	381人
・全身性エリテマトーデス	294人	・重症急性膵炎	15人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	50人
・再生不良性貧血	92人	・混合性結合組織病	30人
・サルコイドーシス	148人	・原発性免疫不全症候群	4人
・筋萎縮性側索硬化症	21人	・特発性間質性肺炎	8人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	230人	・網膜色素変性症	288人
・特発性血小板減少性紫斑病	188人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	21人	・肺動脈性肺高血圧症	3人
・潰瘍性大腸炎	456人	・神経線維腫症	442人
・大動脈炎症候群	31人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	8人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	5人
・天疱瘡	60人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	49人	・ライソゾーム病	79人
・クローン病	143人	・副腎白質ジストロフィー	6人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	7人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	13人	・脊髄性筋萎縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	77人	・球脊髄性筋萎縮症	7人
・アミロイドーシス	19人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	25人
・後縦靭帯骨化症	91人	・肥大型心筋症	139人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	119人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	21人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	80人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	3人	・黄色靭帯骨化症	22人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	109人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類
・腋窩リンパ節郭清術の実施前におけるセンチネルリンパ節の同定及び生検
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定及び転移の検索
・腹腔鏡補助下睪体尾部切除又は核出術
・超音波骨折治療法
・肝切除手術における画像支援ナビゲーション
・先天性難聴の遺伝子診断
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術
・
・
・
・
・
・
・
・
・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	99回
部 検 の 状 況	部検症例数 55例 / 部検率 12.10%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
別紙の通り				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 110

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
別紙の通り			

計 213

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

## 療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額		補助元又は委託元
1	高免疫原性細胞ワクチンと化学療法との併用による低侵襲・個別化療法の確立	小井戸 薫雄	消化器・肝臓内科	1,560,000円	補・委	文部科学省科学研究費 基盤研究(C)
2	膵癌アジュバンド療法による患者選択	小井戸 薫雄	消化器・肝臓内科	1,500,000円	補・委	三井生命厚生事業財団 医学研究特別助成
3	化学療法と免疫療法の併用療法の機序解明とバイオマーカーの開発	小井戸 薫雄	消化器・肝臓内科	1,000,000円	補・委	日本イーライリリー研究助成金
4	進行膵臓がんに対する免疫化学療法	小井戸 薫雄	消化器・肝臓内科	3,000,000円	補・委	財団法人がん研究振興財団
5	急性脳梗塞治療加速のための薬物超音波併用次世代普及型低侵襲システムの開発	井口保之	神経内科	37,050,000円	補・委	厚生労働科学研究費補助金
6	塞栓症原因となる微小栓子の検出力を向上した頸部超音波栓子検出装置の開発	三村秀毅	神経内科	13,500,000円	補・委	課題解決型医療機器の開発・改良に向けた病院・企業間の連携支援事業
7	パーキンソン病の早期診断にむけて一嗅球体積評価	仙石錬平	神経内科	4,160,000円	補・委	文部科学省科研費、若手研究(B)
8	ネフロン発生分子機構に基づく腎障害発症機序の解明と新規治療標的分子の探索	宇都宮 保典	腎臓・高血圧内科	1,300,000円	補・委	文部科学省科研費、基盤研究(C)
9	BMPによる糸球体血管係蹄発生と正常構造維持における役割	宮崎 陽一	腎臓・高血圧内科	1,300,000円	補・委	文部科学省科研費、基盤研究(C)
10	異種胎仔の後腎組織を足場としたヒト腎臓再生法の開発	横尾 隆	腎臓・高血圧内科	1,170,000円	補・委	文部科学省科研費、基盤研究(C)
11	糖尿病腎症進展におけるリン代謝の役割	横山 啓太郎	腎臓・高血圧内科	1,820,000円	補・委	文部科学省科研費、基盤研究(C)
12	CD26の腎疾患における先端治療法としての分子標的療法の基礎的研究	小林 政司	腎臓・高血圧内科	1,300,000円	補・委	文部科学省科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究
13	IgA腎症末梢血単球のmiRNA発現プロファイルとその発症・進展への関与の解明	上田 裕之	腎臓・高血圧内科	780,000円	補・委	文部科学省科研費、若手研究(B)
14	腎臓におけるカベオリン1の意義に関する検討	山本 泉	腎臓・高血圧内科	1,300,000円	補・委	文部科学省科研費、若手研究(B)

(様式第11)

## 療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
15	ニワトリ胚を用いた新規腎臓再生法の開発	福井 亮	腎臓・高血圧内科	910,000円	補・委 文部科学省科研費、若手研究(B)
16	自殺誘導マウスを用いたエリスロポエチン産生組織誘導法の開発	松本 啓	腎臓・高血圧内科	1,430,000円	補・委 文部科学省科研費、若手研究(B)
17	MARPGN study, RemIT-JAV-RPGN	細谷 龍男(分担者)	腎臓・高血圧内科	180,000円	補・委 厚生労働省難治性疾患克服研究事業補助金
18	胎生組織ニッチ法による自己骨髄細胞由来エリスロポエチン誘導法の開発	横尾 隆	腎臓・高血圧内科	1,000,000円	補・委 公益財団法人日本腎臓財団 腎不全病態研究助成
19	腎不全モデルマウスでの分泌型Klotho蛋白の生体調節機構の解明	大城戸 一郎	腎臓・高血圧内科	600,000円	補・委 公益財団法人日本腎臓財団 腎不全病態研究助成
20	KD-MBDにおけるGcm2の機能解析	内山 威人	腎臓・高血圧内科	1,000,000円	補・委 公益財団法人日本腎臓財団 腎不全病態研究助成
21	慢性腎臓病における酸化ストレスと鉄代謝の関連性の検討	丸山 之雄	腎臓・高血圧内科	1,000,000円	補・委 東京慈恵会医科大学研究奨励費
22	VEGFチロシキナーゼ阻害剤スニチニブ、ソラフェニブの関節炎抑制効果の検討	黒坂 大太郎	リウマチ・膠原病内科	1,560,000円	補・委 文部科学省科研費基盤研究(C)
23	関節炎モデルマウスにおけるBU8の役割の検討	野田 健太郎	リウマチ・膠原病内科	1,430,000円	補・委 文部科学省科研費若手研究(B)
24	副腎と心臓におけるアルドステロン合成の機序の研究	吉村 道博	循環器内科	1,430,000円	補・委 文部科学省科研費基盤研究(C)
25	心臓におけるコルチコステロイド産生調節機構と病態生理作用の解明:糖の関与を中心に	名越 智古	循環器内科	1,560,000円	補・委 文部科学省科研費基盤研究(B)
26	不全心筋における心血管疾患予防の最適化に関する研究	森本 智	循環器内科	1,040,000円	補・委 文部科学省科研費基盤研究(B)
27	糖尿病患者における心血管疾患予防の最適化に関する研究	吉村 道博	循環器内科	500,000円	補・委 厚生労働省循環器研究開発費(小川班)
28	本邦におけるHFpEFの実態に関する他施設共同調査研究JASPER研究	吉村 道博	循環器内科	1,000,000円	補・委 厚生労働省循環器研究開発費(小川班)(安斉班)

(様式第11)

## 療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
29	特発性心筋症に関する調査研究 -選択的筋小胞体Ca取り込み能修飾の 筋小胞体Ca <sup>2+</sup> への影響-	本郷 賢一	循環器内科	300,000円	補・委 厚生労働省 難治性疾患等克服 研究事業
31	肺損傷と線維化におけるエクソソームを 介する情報伝達の意義	桑野 和善	呼吸器内科	直接 1,200,000円 間接360,000 円	補・委 文部科学省科学研 究費基盤研究C
32	慢性閉塞性肺疾患におけるフェノタイ プ解析と分子病態解析における新規 診断治療法の確立	中山勝敏	呼吸器内科	直接 1,600,000円 間接480,000 円	補・委 文部科学省科学研 究費基盤研究C
33	呼吸器病態におけるマクロライド系抗 生物質によるオートファジー制御	鶴重千加子	呼吸器内科	直接 1,500,000円 間接450,000 円	補・委 文部科学省科学研 究費若手研究B
34	TOLL様受容体シグナルによる肺障害 に対する印クレチン関連薬の治療効果	沼田 尊功	呼吸器内科	直接 1,200,000円 間接360,000 円	補・委 文部科学省科学研 究費基盤研究C
35	肺線維症病態におけるオートファジー と小胞体ストレス応答が制御する細胞 運命	荒屋 潤	呼吸器内科	直接 1,500,000円 間接450,000 円	補・委 文部科学省科学研 究費基盤研究C
36	多様な嗜癖行動(薬物と薬物によらな い依存)の脳内機序と新規治療薬開発 に関する研究	宮田 久嗣	精神神経科	1,820,000円	補・委 文部省科学研究費 基盤研究(C)
37	アルツハイマー病における社会的認知 の障害の神経基盤に関する研究	品川 俊一郎	精神神経科	650,000円	補・委 文部科学省研究費 若手研究(B)
38	睡眠薬の適正使用に関するエビデンス 抽出と今後の検討課題に関する研究	小曾根 基裕 (分担)	精神神経科	200,000円	補・委 厚生労働省 障害者 対策総合研究事業 (精神障害分野)(三 島班)
39	認知症のための縦断型連携パスを用 いた医療と介護の連携に関する研究	角 徳文 (分担)	精神神経科	1,500,000円	補・委 厚生労働省 認知症 対策総合研究事業 (池田班)
40	睡眠障害患者のQOLを改善するため の科学的根拠に基づいた診断治療技 術の開発	山寺 亘 (分担)	精神神経科	1,000,000円	補・委 厚生労働省 障害者 対策総合研究事業 (精神障害分野)(三 島班)
41	左心不全ラットの脳における神経内分 泌学的研究	宮田 市郎	小児科	650,000円 (うち間接経 費:150,000 円)	補・委 文部科学省研究費 補助金基盤研究(C)
42	脳血流への影響を加味した右心不全に 対する治療法の確立	浦島 崇	小児科	1,560,000円 (うち間接経 費:360,000 円)	補・委 文部科学省研究費 補助金基盤研究(C)
43	小児希少難病の患者家族会ネットワー クを活用した患者臨床情報バンクの構築と その創薬等への活用	井田 博幸	小児科	1,000,000円	補・委 厚生労働科学研 究費補助金(難治性疾 患克服研究事業(奥 山班))



(様式第11)

## 療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
44	アトピー性皮膚炎の疾患感受性遺伝子解析とアトピー性皮膚炎が睡眠や就労に与える影響に関する研究	佐伯 秀之	皮膚科	900,000円	補・委 厚生労働科学研究費補助金
45	人工多機能性幹細胞を用いた先天性表皮水疱症の治療法の確立	伊藤 宗成	皮膚科	1,200,000円	補・委 厚生労働科学研究費補助金(研究活動スタート支援)
46	PPI治療抵抗逆流性食道炎患者における治療薬変更後の症状改善効果についての研究	矢野 文章	外科	1,100,000円	補・委 NPO法人消化器疾患治療研究推進機構 臨床研究助成金
47	安定同位体医学応用研究基盤拠点の形成	中田 浩二	外科	1,000,000円	補・委 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
48	食道癌におけるユビキチン類似蛋白質の意義	石橋 由朗	外科	650,000円	補・委 平成24年度科学研究費補助金 基盤研究◎
49	臨床応用を目指した膵臓癌に対する遺伝子治療に関する検討	古川 賢英	外科	3,000,000円	補・委 文部科学省科学研究費 (学術研究助成基金) 若手研究B
50	ゲノムワイド関連解析を用いた革新的な肝移植後肝炎ウイルス再感染予防・治療法の確立	矢永 勝彦(研究分担)	外科	300,000円	補・委 厚生労働科学研究費
51	バイオフィーム感染症制圧研究拠点の形成	矢永 勝彦(研究分担)	外科	3,000,000円	補・委 文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
52	肺癌に対するビタミンDサプリメント二重盲検ランダム化プラセボ比較臨床研究	秋葉 直志	外科	650,000円	補・委 文部科学省 科学研究費
53	バイオフィーム感染症制圧研究拠点の形成	丸毛 啓史	整形外科	1,000,000円	補・委 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
54	神経線維腫症に伴うdystrophic typeの脊柱変形の長期術後成績に関する研究	舟崎 裕記	整形外科	850,000円	補・委 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業
55	慢性閉塞性肺疾患における骨脆弱化機序の解明 -全身性コラーゲン分析をもとに-	斎藤 充	整形外科	2,730,000円	補・委 文部科学省 科学研究費 基盤研究(C)
56	非侵襲的骨質評価法の確立	木田 吉城	整形外科	500,000円	補・委 文部科学省 科学研究費 基盤研究(C)
57	新規骨代謝改善薬の転移性骨腫瘍に対する効果の解析	前田 和洋	整形外科	1,196,000円	補・委 文部科学省 科学研究費 基盤研究(C)

(様式第11)

## 療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
58	Wnt非古典経路を抑制する中和抗体の作製	前田 和洋	整形外科	1,000,000円	補・委 中富健康科学振興財団 研究助成
59	巨大弾性蛋白質コネクチンを標的とした新しい筋萎縮治療法の確立	宇高 潤	整形外科	1,000,000円	補・委 中富健康科学振興財団 研究助成
60	Wnt非古典経路を抑制する中和抗体の作製	前田 和洋	整形外科	500,000円	補・委 整形災害外科学研究所助成財団研究助成
61	骨芽細胞系細胞と破骨細胞前駆細胞間のWnt5a-Ror2シグナルは破骨細胞の分化を促進する	前田 和洋	整形外科	500,000円	補・委 井上科学財団 研究奨励賞
62	神経線維腫症に伴うdystrophic typeの脊柱変形の長期術後成績に関する研究	舟崎 裕記	整形外科	850,000円	補・委 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業
63	グリオーマ幹細胞と樹状細胞の融合細胞を用いた活性型グリオーマワクチンの開発	赤崎安晴	脳神経外科	800,000円	補・委 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)
64	新しいステントレス僧帽弁開発:臨床応用に向けて	代表者 夜久 均 研究分担者 橋本和弘	心臓外科	3,300,000円	補・委 日本学術振興会
65	子宮頸管操作における炎症性物質と前置・癒着胎盤の関連に対する研究	大浦 訓章	産婦人科	1,560,000円	補・委 文部科学省研究費補助金挑戦的萌芽研究
66	化学療法先行治療を進行卵巣がんの標準治療とするための研究	落合 和徳	産婦人科	800,000円	補・委 厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)
67	高悪性度筋層非浸潤癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除後の治療方針の確立に関する研究	颯川 晋	泌尿器科	130,000円	補・委 厚生労働省科学研究費助成金「がん臨床研究事業」
68	脊髄における下部尿路機能を制御する神経伝達物質の網羅的解析と新規治療薬の探求	古田 昭	泌尿器科	650,000円	補・委 文部科学省研究補助金(基盤研究C)
69	ホルモン耐性前立腺癌に対するsemaphorin 3 Cantisenseの治療効果	林 典宏	泌尿器科	1,560,000円	補・委 文部科学省研究補助金(若手研究(B))
70	次世代アンドロゲン阻害薬抵抗性の進行性前立腺癌の生物学的特徴と治療分子の探索	車 英俊	泌尿器科	2,730,000円	補・委 文部科学省研究補助金(基盤研究C)
71	プロテオミクス解析およびバスウェイ解析による新規前立腺癌バイオマーカーの検討	木村高弘	泌尿器科	2,080,000円	補・委 文部科学省研究補助金(基盤研究C)

(様式第11)

## 療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
72	ベーチェット病ぶどう膜炎の遺伝子型と表現型の解析 —サイトカインとの関連—	酒井 勉	眼科	1,000,000円	補・委 東京慈恵会医科大学研究奨励費
73	血管新生疾患の分子機構解明と治療に関する研究	林 孝彰	眼科	6,000,000円	補・委 公益財団法人・車両競技公益資金記念財団
74	次世代シーケンサーを用いたエクソーム配列解析による黄斑ジストロフィーの原因遺伝子と発症機序の解明	林 孝彰	眼科	3,000,000円	補・委 文部科学省・科学研究費補助金(難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研)
75	緊張部型中耳真珠腫の成因・進展機序の解明、予防と手術的治療に関する研究	森山 寛	耳鼻咽喉科	900,000円	補・委 文部科学省科研費基盤研究(C)
76	鼻粘膜上皮細胞シートを用いた鼓室形成術の開発	小島 博己	耳鼻咽喉科	1,200,000円	補・委 文部科学省科研費基盤研究(C)
77	立体画像表示システムを用いた鼻副鼻腔ステレオナビゲーション手術術式の研究	鴻 信義	耳鼻咽喉科	1,000,000円	補・委 文部科学省科研費基盤研究(C)
78	空中浮遊微生物(真菌、黄色ブドウ球菌)による好酸球性副鼻腔炎の発症とその病態解明	松脇 由典	耳鼻咽喉科	1,100,000円	補・委 文部科学省科研費基盤研究(C)
79	22q11.2欠失症候群の内耳形成異常におけるFGFファミリーシグナルの機能解析	谷口 雄一郎	耳鼻咽喉科	1,200,000円	補・委 文部科学省科研費基盤研究(C)
80	鼻副鼻腔手術における重畳表示型ナビゲーションシステムの開発	飯村 慈朗	耳鼻咽喉科	1,200,000円	補・委 文部科学省科研費基盤研究(C)
81	中耳粘膜の血流動態が中耳腔全圧に及ぼす影響に関する研究	内水 浩貴	耳鼻咽喉科	400,000円	補・委 文部科学省科研費若手研究(B)
82	難治性副鼻腔炎と下気道疾患の関連-IL-33による粘膜組織内の相互作用について-	和田 弘太	耳鼻咽喉科	900,000円	補・委 文部科学省科研費若手研究(B)
83	慢性副鼻腔炎の新規治療法開発に向けた環境要因と局所免疫応答の相互作用の解明	浅香 大也	耳鼻咽喉科	900,000円	補・委 文部科学省科研費若手研究(B)
84	骨組織の免疫応答が慢性副鼻腔炎に与える影響について	大櫛 哲史	耳鼻咽喉科	1,500,000円	補・委 文部科学省科研費若手研究(B)
85	内耳初期発生に必要な耳板陥入シグナルの解明	力武 正浩	耳鼻咽喉科	1,000,000円	補・委 文部科学省科研費若手研究(B)

(様式第11)

## 療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
86	頭頸部癌におけるゲノムコピー数多型解析を用いたヒトパピローマウイルス感染の検討	濱 孝憲	耳鼻咽喉科	1,500,000円	補・委 文部科学省科研費若手研究(B)
87	内耳発生後期に必要なラセン靭帯分化誘導シグナルの解明	小林 俊樹	耳鼻咽喉科	1,800,000円	補・委 文部科学省科研費若手研究(B)
88	卵形嚢有毛細胞の自発的再生メカニズムの解明	宇田川 友克	耳鼻咽喉科	1,200,000円	補・委 文部科学省科研費研究活動スタート支援
89	上皮麻痺の治療 triple combination treatment の確立	安保 雅博	リハビリテーション科	2,700,000円	補・委 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)
90	脳卒中後歩行障害に対する、バタフライ・コイルによるrTMSの臨床的有用性の検討	角田 亘	リハビリテーション科	1,400,000円	補・委 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)
91	急性期～亜急性期脳卒中患者に対するrTMS治療	佐々木 信幸	リハビリテーション科	400,000円	補・委 文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)
92	嚥下障害治療法としての反復経頭蓋磁気刺激と集中的リハビリテーション併用療法の確立	百崎 良	リハビリテーション科	1,000,000円	補・委 文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)
93	高次脳機能障害に対する経頭蓋的磁気刺激治療の検討	原 貴敏	リハビリテーション科	900,000円	補・委 文部科学省科学研究費補助金挑戦的萌芽研究
94	安定同位医学応用研究基盤拠点(SI医学応用研究基盤拠点)の形成	(分担)松浦知和	中央検査部	1,500,000円	補・委 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
95	次世代生命基盤技術を用いたB型肝炎制圧のための創薬研究	(分担)松浦知和	中央検査部	18,000,000円	補・委 厚生労働省科学研究費補助金
96	中枢神経系に及ぼす筋弛緩薬の作用機序の解明	上園 晶一	麻酔部	2,600,000円	補・委 文部科学省 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
97	肝・腎臓における虚血再灌流障害に対する麻酔薬による保護効果の機序に関する研究	三尾 寧	麻酔部	1,820,000円	補・委 文部科学省 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
98	癌性疼痛におけるモルヒネ長期随腔内投与の副作用についての研究	近藤 一郎	麻酔部	260,000円	補・委 文部科学省 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
99	心臓外科手術患者のビタミンD濃度およびビタミンD受容体遺伝子多型と重症度との関連	讚井 将満	麻酔部 (集中治療部)	650,000円	補・委 文部科学省 科学研究費助成事業 基盤研究(C)

(様式第11)

療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
100	In vivoナノイメージングによる心疾患の病態解析	照井 貴子	麻酔部	1,430,000円	補・委 文部科学省 科学研究費助成事業 若手研究(B)
101	抗癌薬バルプロ酸の周術期投与による術後痛の軽減とそのメカニズムの解明	甫母 章太郎	麻酔部	2,210,000円	補・委 文部科学省 科学研究費助成事業 若手研究(B)
102	オキサリプラチンによる難治性神経障害性疼痛の機序解明および治療法の開発	下山 直人	麻酔部 (ペインクリニック)	130,000円	補・委 文部科学省 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
103	医療の質・安全の向上をめざしたシミュレーション教育・研修システムの開発および遠隔教育への応用についての研究	松本 尚浩	麻酔部	400,000円	補・委 厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業(井田班)
104	オキサリプラチンによる難治性神経障害性疼痛の機序解明および治療法の開発	下山 直人	麻酔科(ペインクリニック)	130,000円	補・委 文部科学省 科学研究費助成事業 若手研究(B)
105	造影ハーモニック超音波内視鏡検査の臨床的有用性の評価に関する研究	加藤智弘	内視鏡科	1,500,000円	補・委 独立行政法人国立がん研究センターがん研究開発費
106	共焦点内視鏡を用いた消化管神経叢の形態機能評価法の開発	炭山和毅	内視鏡科	2,000,000円	補・委 上原記念生命科学財団
107	糖尿病性消化管機能障害の病因論的解析に関する研究ー共焦点レーザー内視鏡による消化管壁内神経叢の生体内観察法ー	大谷友彦	内視鏡科	500,000円	補・委 内視鏡医学研究振興財団
108	急性脳梗塞治療加速のための薬物超音波併用次世代普及型低侵襲システムの開発	古幡 博 小川 武希 他	総合医科学研究センター 医用エンジニアリング研究室, 救	39,000,000円 (うち間接経費9,000,000円)	補・委 厚生労働科学研究費
109	輸血療法における重篤な副作用であるTRALI・TACOに対する早期診断・治療のためのガイドライン策定に関する研究	田崎 哲典	輸血部	3,840,000円	補・委 厚生労働科学研究費補助金
110	血液製剤の有効期間を6週間に戻すことの医学的、社会的意義	田崎 哲典	輸血部	390,000円	補・委 文部科学省科研費(基盤研究C)

合計 110件

(注)

1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	PLoS ONE	Combined TLR2/4-activated dendritic/tumor cell fusions induce augmented cytotoxic T lymphocytes.	Koido S, Homma S, Okamoto M, Namiki Y, Takakura K, Takahara A, Odahara S, Tsukinaga S, Yukawa T, Mitobe J, Matsudaira H, Nagatsuma K, Uchiyama K, Kajihara M, Arihiro S, Imazu H, Arakawa H, Kan, Komita H, Ito M, Ohkusa T, Gong J, and Tajiri H.	消化器・肝臓 内科
2	Jpn J Infect Dis	A nested culture method improves the detection of Fusobacterium from stool in ulcerative colitis.	Yukawa Y, Ohkusa T, Shibuya T, Tsukinaga S, Mitobe J, Takakura K, Takahara A, Odahara S, Matsudaira H, Nagatsuma K, Kitahara T, Kajihara M, Uchiyama K, Arakawa H, Koido S, Tajiri H.	消化器・肝臓 内科
3	Anticancer Res	Characterization of structure and direct antigen presentation by dendritic/tumor fused cells as cancer vaccines.	Koido S, Gong J	消化器・肝臓 内科
4	Dig Dis Sci	The fatty acid profile of the erythrocyte membrane in the initial-onset inflammatory bowel disease patients.	Uchiyama K, Odahara S, Nakamura M, Koido S, Katahira K, Shiraishi H, Ohkusa T, Fujise K, Tajiri H.	消化器・肝臓 内科
5	Pharm Res	A rapid and reliable elimination system for cesium.	Namiki Y, Namiki T, Ishii Y, Koido S, Nagase Y, Tsubota A, Tada N, Kitamoto Y.	消化器・肝臓 内科
6	Anticancer Res	Suppressive effects on regulatory T cell induction by cyclophosphamide and gemcitabine in vitro.	Kan S, Hazama S, Maeda K, Inoue Y, Homma S, Koido S, Okamoto M, Oka M.	消化器・肝臓 内科
7	Neoplasia	Prognostic impact of expression of Bcl-2 and Bax genes in circulating immune cells derived from patients with head and neck carcinoma.	Tomoyuki T, Okamoto M, Nakashiro K, Shimodaira S, Koido S, Homma S, Sato M, Fujita T, Kawakami Y, Hamakawa H.	消化器・肝臓 内科
8	Eur Neurol	Zoster sine herpette: Detection by skin exudates and contrast magnetic resonance imaging.	engoku R, Yaguchi H, Mastushima S, Mochio S.	神経内科
9	Perspective in Medicine	Evaluation of very early recanalization after tPA administration monitoring by transcranial color-coded sonography.	Mitsumura H, Yogo M, Sengoku R, Furuhashi H, Mochio S.	神経内科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
10	BMJ Case Rep	A 20-year-old female with Hirayama disease complicated with dysplasia of the cervical vertebrae and degeneration of intervertebral discs.	Hashimoto M, Yoshioka M, Sakimoto Y, Suzuki M.	神経内科
11	Hypertens Res	Stroke patients with cerebral microbleeds on MRI scans have arteriolosclerosis as well as systemic atherosclerosis.	Shimoyama T, Iguchi Y, Kimura K, Mitsumura H, Sengoku R, Kono Y, Morita M, Mochio S.	神経内科
12	Eur J Neurol	Admission hyperglycemia causes infarct volume expansion in patients with ICA or MCA occlusion: Association of collateral grade on conventional angiography.	Shimoyama T, Shibazaki K, Kimura K, Uemura J, Shiromoto T, Watanabe M, Inoue T, Iguchi Y, Mochio S.	神経内科
13	Neurology	Trigeminal neuropathy associated with herpes labialis.	Umehara T, Oka H, Toyoda C, Mochio S.	神経内科
14	J Stroke Cerebrovasc Dis	Kurashiki Stroke Registry investigators. Stroke incidence and usage rate of thrombolysis in a Japanese urban city: the Kurashiki stroke registry.	Iguchi Y, Kimura K, Sone K, Miura H, Endo H, Yamagata S, Koide H, Suzuki K, Kimura T, Sakurai M, Mishima N, Yoshii K, Fujisawa H, Ebisutani S	神経内科
15	Stroke	Effects of public education by television on knowledge of early stroke symptoms among a Japanese population aged 40 to 74 years: a controlled study.	Miyamatsu N, Kimura K, Okamura T, Iguchi Y, Nakayama H, Toyota A, Watanabe M, Morimoto A, Morinaga M, Yamaguchi T.	神経内科
16	Am J Cardiol	Brain natriuretic peptide levels as a predictor for new atrial fibrillation during hospitalization in patients with acute ischemic stroke.	Shibazaki K, Kimura K, Fujii S, Sakai K, Iguchi Y.	神経内科
17	Int J Stroke	Early ischaemic diffusion lesion reduction in patients treated with intravenous tissue plasminogen activator: infrequent, but significantly associated with recanalization.	Sakamoto Y, Kimura K, Shibazaki K, Inoue T, Uemura J, Aoki J, Sakai K, Iguchi Y	神経内科
18	J Stroke Cerebrovasc Dis	Comparison of CT and DWI Findings in Ischemic Stroke Patients within 3 Hours of Onset.	Mitomi M, Kimura K, Aoki J, Iguchi Y	神経内科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
19	J Neurol Sci	Administration of edaravone, a free radical scavenger, during t-PA infusion can enhance early recanalization in acute stroke patients--a preliminary study.	Kimura K, Aoki J, Sakamoto Y, Kobayashi K, Sakai K, Inoue T, Iguchi Y, Shibazaki K.	神経内科
20	Neurol Sci	A small pontine infarct on DWI as a lesion responsible for wall-eyed bilateral internuclear ophthalmoplegia syndrome.	Sakamoto Y, Kimura K, Iguchi Y, Shibazaki K, Miki A.	神経内科
21	Jpn J Ophthalmol	Reduced retinal ganglion cell complex thickness in patients with posterior cerebral artery infarction detected using spectral-domain optical coherence tomography.	Yamashita T, Miki A, Iguchi Y, Kimura K, Maeda F, Kiryu J.	神経内科
22	Am J Clin Nutr	Randomized, double-blind, placebo-controlled trial of vitamin D supplement in Parkinson's disease.	Suzuki M, Yoshioka M, Hashimoto M, Murakami M, Noya M, Takahashi D, Urashima M.	神経内科
23	Mov Disord	25-hydroxyvitamin D, vitamin D receptor gene polymorphisms, and severity of Parkinson's disease.	Suzuki M, Yoshioka M, Hashimoto M, Murakami M, Kawasaki K, Noya M, Takahashi D, Urashima M.	神経内科
24	Kidney Int. 2012;81(6)595	Guidelines and medication compliance.	Yokoyama K, Tanno Y, Ohkido I, Hosoya T.	腎臓・高血圧内科
25	Kidney Int. 2012;81(8)800-1	Clinical impact of a combined therapy of PD. The hypothesis that type of species change depends on neutral-pH PD solutions.	Nakao M, Yokoyama K, Tanno Y, Ohkido I, Hayakawa H, Hosoya T.	腎臓・高血圧内科
26	Kidney Int. 2012;82(2)244-5	Laparoscopic approach for the evaluation of peritoneal injury	Tanno Y, Yokoyama K, Hosoya T	腎臓・高血圧内科
27	J Biomed Biotechnol. 2012;Epub2012 Nov26	De novo kidney regeneration with stem cells.	Yokote S, Yamanaka S, Yokoo T.	腎臓・高血圧内科
28	BMC nephrol. 2012;13(1)36	Estimation of salt intake from spot urine samples in patients with chronic kidney disease	Ogura M, Kimura A, Takane K, Nakao M, Hamaguchi A, Terawaki H, Hosoya T	腎臓・高血圧内科
29	Clin Nephrol. 2012;78(4)281-6	Do serum hepcidin-25 levels correlate with oxidative stress in patients with chronic kidney disease not receiving dialysis?	Maruyama Y, Yokoyama K, Yamamoto H, Nakayama M(Fukushima Medical Univ), Hosoya T.	腎臓・高血圧内科



(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
30	Clin Exp Nephrol. 2012;16(2)269-78	Antihypertensive effect of a fixed-dose combination of losartan/hydrochlorothiazide in patients with uncontrolled hypertension: a multicenter study.	Hosoya T, Kuriyama S, Ohno I, Kawamura T, Ogura M, Ikeda M, Ishikawa M, Hayashi F, Kanai T, Tomonari H, Soejima M, Akaba K, Tokudome G, Endo S, Fukui A, Gomi H, Hamaguchi A, Hanaoka K, Hara Y, Hara Y, Hasegawa T, Hayakawa H, Hikida M, Hirano K, Horiguchi M, Hosoya M, Ichida K, Imai T, Ishii T, Ishikawa H, Kameda C, Kasai T, Kobayashi A, Kobayashi H, Kurashige M, Kusama Y, Maezawa H, Maezawa Y, Maruyama Y, Matsuda H, Matsuo N, Matsuo T, Miura Y, Miyajima M, Miyakawa M, Miyazaki Y, Mizuguchi M, Nakao M, Nokano H, Ohkido I, Ohtsuka Y, Okada K, Okamoto H, Okonogi H, Saikawa H, Saito H, Sekiguchi C, Suetsugu Y, Sugano N, Suzuki T, Suzuki T, Takahashi H, Takahashi Y, Takamizawa S, Takane K, Morita T, Takazoe K, Tanaka H, Tanaka S, Terawaki H, Toyoshima R, Tsuboi N, Udagawa T, Ueda H, Ueda Y, Uetake M, Unemura S, Utsunomiya M, Utsunomiya Y, Yamada T, Yamada Y, Yamaguchi Y, Yamamoto H, Yokoo T, Yokoyama K, Yonezawa H, Yoshida H, Yoshida M, Yoshizawa T.	腎臓・高血圧 内科
31	Clin Exp Nephrol. 2012;in press	Clinical features and long-term renal outcomes of Japanese patients with obesity-related glomerulopathy	Tsuboi N, Koike K, Hirano K, Utsunomiya Y, Kawamura T, Hosoya T	腎臓・高血圧 内科
32	Intern Med. 2012;51(18)2509-14	Effect of combined antihypertensive therapy with losartan/hydrochlorothiazide on uric acid metabolism.	Hosoya T, Kuriyama S, Yoshizawa T, Kobayashi A, Ohtsuka Y, Ohno I	腎臓・高血圧 内科
33	Clin Kidney J. 2012;5(5)459-62	Fungal granulomatous interstitial nephritis presenting as acute kidney injury diagnosed by renal histology including PCR assay	Ogura M, Kagami S, Nakao M, Kono M(Laboratory Medicine), Kanetsuna Y(Pathology), Hosoya T	腎臓・高血圧 内科
34	日本臨床免疫学会会誌	第V回脳神経麻痺を呈した不全型Heerford+症候群の一例	大谷一博、野田健太郎、浮地太郎、金月勇、黒坂大太郎	リウマチ・膠原 病内科
35	Cardiovascular Diabetology (Cardiovasc Diabetol)	The role of Na <sup>+</sup> /H <sup>+</sup> exchanger in Ca <sup>2+</sup> overload and ischemic myocardial damage in hearts from type 2 diabetic db/db mice	Anzawa R, Seki S, Nagoshi T, Taniguchi I, Feuvray D (University of Paris-Sud 11 and UMR-CNRS 8078, Le Plessis Robinson, France.) Yoshimura M	循環器内科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
36	Circ J	Impact of body mass index on the clinical outcome in patients hospitalized with congestive heart failure.	Komukai K, Minai K, Arase S, Ogawa T, Nakane T, Nagoshi T, Kayama Y, Abe Y, Morimoto S, Ogawa K, Fujii S, Sekiyama H, Date T, Kawai M, Hongo K, Taniguchi I, Yoshimura M.	循環器内科
37	Coronary Artery Disease (Coron Artery Dis.)	High incidence of provoked coronary spasm in the presence of a stent after myocardial infarction: therapeutic and prognostic implications.	Katoh D, Mizuno Y (Division of Cardiovascular Medicine, Kumamoto Kinoh Hospital, Kumamoto Aging Research Institute), Harada E (Division of Cardiovascular Medicine, Kumamoto Kinoh Hospital, Kumamoto Aging Research Institute), Ito T, Morikawa Y (First Dept	循環器内科
38	Eur Heart J: Acute Cardiovascular Care	Serial measurements associated with an amelioration of acute heart failure: an analysis of repeated quantification of plasma BNP levels.	Ito K, Kawai M, Nakane T, Narui R, Hioki M, Tanigawa SI, Yamashita S, Inada K, Matsuo S, Date T, Yamane T, Yoshimura M.	循環器内科
39	Europace	Deterioration of QT prolongation after successful catheter ablation for Wolff-Parkinson-White syndrome	Date T, Yamane T, Yoshimura M	循環器内科
40	Exp Clin Cardiol.	Effect of rosuvastatin on systemic blood pressure in patients with hypercholesterolemia.	Seki S, Hashimoto K, Taniguchi I, Yoshimura M, Takeda N.	循環器内科
41	Heart Vessels.	Endothelin-1 prolongs intracellular calcium transient decay in neonatal rat cardiac myocytes.	Uehara Y, Azuma Y, Minai K, Yoshida H, Yoshimura M, Shimizu M.	循環器内科
42	Heart Vessels	Adenosine-induced atrial tachycardia and multiple foci initiating atrial fibrillation eliminated by catheter ablation using a non-contact mapping system.	Hioki M, Matsuo S, Yamane T, Tokutake K, Ito K, Narui R, Tanigawa S, Yamashita S, Tokuda M, Inada K, Date T, Yoshimura M.	循環器内科
43	Heart Vessels	L/N-type calcium channel blocker suppresses reflex aldosterone production induced by antihypertensive action.	Aritomi S, Konda T, Yoshimura M.	循環器内科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
44	Horm Metab Res.	Biphasic action of aldosterone on Akt signaling in cardiomyocytes.	Nagoshi T, Date T, Fujisaki M, Yoshino T, Sekiyama H, Ogawa K, Kayama Y, Minai K, Komukai K, Ogawa T, Yoshimura M.	循環器内科
45	Intern Med	Determination of the B-type Natriuretic Peptide Level as a Criterion for Abnormalities in Japanese Individuals in Routine Clinical Practice: The J-ABS Multi-center Study (Japan Abnormal BNP Standard).	Kawai M, Yoshimura M, Harada M*, Mizuno Y†, Hiramitsu S‡, Shimizu M, Shoda T §, Kuwahara K*, Miyagishima K‡, Ueshima K#, Nakao K* (*Department of Medicine and Clinical Science, Kyoto University Graduate School of Medicine, † Division of Cardiovascu	循環器内科
46	Intern Med.	Contribution of extracardiac factors to the inconsistency between plasma B-type natriuretic peptide levels and the severity of pulmonary congestion on chest X-rays in the diagnosis of heart failure.	Nakane T, Kawai M, Komukai K, Kayama Y, Matsuo S, Nagoshi T, Minai K, Date T, Ogawa T, Yagi H, Yoshimura M.	循環器内科
47	J Cardiovasc Electrophysiol.	Double potentials of coronary sinus during the mitral isthmus ablation.	Matsuo S, Yamane T, Hioki M, Narui R, Tanigawa S, Date T, Yoshimura M.	循環器内科
48	J Clin Endocrinol Metab.	Paradoxical clearance of natriuretic peptide between pulmonary and systemic circulation: a pulmonary mechanism of maintaining natriuretic peptide plasma concentration in obese individuals.	Date T, Yamane T, Yamashita S, Matsuo S, Matsushima M, Inada K, Taniguchi I, Yoshimura M.	循環器内科
49	Journal of Cardiology (J Cardiol.)	Post-discharge clinical and angiographic outcomes of patients presenting within 48 h of STEMI treated with paclitaxel- or sirolimus-eluting stents	Ishikawa T, Mutoh M, Nakano Y, Suzuki T, Nakata K, Murakami A, Miyamoto T, Yoshimura M.	循環器内科
50	Pacing Clin Electrophysiol.	Identification of a conduction gap of the mitral isthmus by using a novel high-density mapping catheter.	Matsuo S, Yamane T, Hioki M, Tanigawa S, Tokutake K, Ito K, Narui R, Nakane T, Tokuda M, Yamashita S, Inada K, Date T, Sugimoto K, Yoshimura M.	循環器内科
51	Pacing Clin Electrophysiol. doi: 10.1111/j.1540-8159.2011.03259.x. Epub 2011 Nov 6.	Real-time dominant frequency analysis of the pulmonary vein in patients with paroxysmal atrial fibrillation.	Matsuo S, Yamane T, Date T, Tokutake K, Hioki M, Ito K, Narui R, Tanigawa S, Tokuda M, Yamashita S, Inada K, Minai K, Komukai K, Sugimoto K, Yoshimura M.	循環器内科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
52	Diabetes Technol Ther. 2013;15:378-85.	Comparison of glycemic variability in patients with type 2 diabetes given sitagliptin or voglibose: a continuous glucose monitoring-based pilot study.	Seo C, Sakamoto M, Nishimura R, Tsujino D, Ando K, Morimoto A, Utsunomiya K.	糖尿病・代謝・内分泌内科
53	Cardiovasc Diabetol. 2012;11:92.	Comparison of vildagliptin twice daily vs. sitagliptin once daily using continuous glucose monitoring (CGM): crossover pilot study (J-VICTORIA study).	Sakamoto M, Nishimura R, Irako T, Tsujino D, Ando K, Utsunomiya K.	糖尿病・代謝・内分泌内科
54	Diabetes Technol Ther. 2012 ;596-601	A Crossover Comparison of Glycemic Variations in Japanese Patients with Type 1 Diabetes Receiving Insulin Glargine Versus Insulin Detemir Twice Daily Using Continuous Glucose Monitoring (CGM): J COLLECTION (Jikei COmparison of Lantus and LEvemir with Cgm for Thinking Insulin OptimizationN).	Tsujino D, Nishimura R, Morimoto A, Tajima N, Utsunomiya K.	糖尿病・代謝・内分泌内科
55	Breast Cancer.	Possible clinical cure of metastatic breast cancer: lessons from our 30-year experience with oligometastatic breast cancer patients and literature review.	Kobayashi T, Ichiba T, Sakuyama T, Arakawa Y, Nagasaki E, Aiba K, Nogi H, Kawase K, Takeyama H, Toriumi Y, Uchida K, Kobayashi M, Kanehira C, Suzuki M, Ando N, Natori K, Kuraishi Y.	腫瘍・血液内科
56	Am J Respir Cell Mol Biol 46:306-312, 2012.	Involvement of creatine kinase B in cigarette smoke induced-bronchial epithelial cell senescence.	Hara H, Araya J, Takasaka N, Fujii S, Kojima J, Yumino Y, Shimizu K, Ishikawa T, Numata T, Kawaishi M, Saito K, Hirano J, Odaka M, Morikawa T, Hano H, Nakayama K, Kuwano K.	呼吸器内科
57	Oncimmunology 1:5, 630-641, 2012.	Insufficient autophagic clearance promotes bronchial epithelial cell senescence in chronic obstructive pulmonary disease.	Fujii S, Hara H, Araya J, Takasaka N, Kojima J, Ito S, Minagawa S, Yumino Y, Ishikawa T, Kawaishi M, Kamiya K, Hirano J, Odaka M, Morikawa T, Nishimura SL, Nakayama K, Kuwano K.	呼吸器内科
58	Respir Res. 2013 Mar 5;14:30.	Apoptosis inhibitor of macrophage (AIM) expression in alveolar macrophages in COPD.	Kojima J, Araya J, Hara H, Ito S, Takasaka N, Kobayashi K, Fujii S, Tsurushige C, Numata T, Ishikawa T, Shimizu K, Kawaishi M, Saito K, Kamiya N, Hirano J, Odaka M, Morikawa T, Hano H, Arai S, Miyazaki T, Kaneko Y, Nakayama K, Kuwano K	呼吸器内科

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
59	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 304:L56-69, 2013.	Insufficient autophagy in idiopathic pulmonary fibrosis.	Araya J, Kojima J, Takasaka N, Ito S, Fujii S, Hara H, Yanagisawa H, Kobayashi K, Tsurushige C, Kawaishi M, Kamiya N, Hirano J, Odaka M, Morikawa T, Nishimura SL, Kawabata Y, Hano H, Nakayama K, Kuwano K.	呼吸器内科
60	Int Arch Allergy Immunol. 160:27-36, 2013.	Int Arch Allergy Immunol. 160:27-36, Corticosteroids plus long-acting $\beta$ 2-agonists prevent double-stranded RNA-induced upregulation of B7-H1 on airway epithelium.	Kan-O K, Matsumoto K, Inoue H, Fukuyama S, Asai Y, Watanabe W, Kurokawa M, Araya J, Kuwano K, Nakanishi Y.	呼吸器内科
61	Journal of Japan Psychiatric Hospitals Association, The English Version of Selected Articles. 2011;30(6):28-32.	Current Morita-shinkeishitsu and Morita therapy.	Nakamura K, Tanii K.	精神神経科
62	Handbook of Adult Psychopathology in Asians. New York:Oxford University Press, Inc. 2012;393-413.	Culture-related specific Psychiatric syndromes observed in Asia. In: Chang EC ed.	Tseng WS, Min SK, Nakamura K, Katsuragawa S.	精神神経科
63	Physiol Behav 2012;107:277-82.	Facilitation of intracranial self-stimulation behavior in rats by environmental stimuli associated with nicotine.	Itasaka M(Senshu Uni), Hanasawa M(Senshu Uni), Hirosaka N(NTT Comm Lab), Miyata H, Nakayama K.	精神神経科
64	International Journal of Clinical Medicine. 2012;3(3):194-9.	Factors Associated with Excessive Daytime Sleepiness in Obstructive Sleep Apnea Syndrome under CPAP Treatment.	Yamadera W, Chiba S, Iwashita M, Aoki R, Harada D, Sato M, Moriwaki H, Obuchi K, Ozone M, Nishino S, Itoh H, Nakayama K.	精神神経科
65	Sleep Medicine Clinics. 2012;7(2): 233-48.	Neurochemistry and biomarker of narcolepsy and other primary and secondary hypersomnia.	Nishino S, Deguzman C, Yamadera W, Chiba S, Kanbayashi T.	精神神経科
66	IMJ, 2012;19(3):186-7.	Prevalence of computers around the work and depressive tendency in IT experts-A comparison with other professions.	Nakamura K, Seto H, Okino S, Ono K, Ogasawara M, Shibamoto Y, Agata T, Nakayama K.	精神神経科
67	Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2012 Dec 14.[ahead of print]	Test-retest reproducibility of dopamine D(2/3) receptor binding in human brain measured by PET with [(11)C]MNPA and [(11)C] raclopride.	Kodaka F, Ito H, Kimura Y, Fujie S, Takano H, Fujiwara H, Nakayama K, Halldin C, Farde L, Suhara T.	精神神経科
68	PLoS One. 2012;7(7):e41338.	Effect of cooperation level of group on punishment for non-cooperators: a functional magnetic resonance imaging study.	Kodaka F, Takahashi H, Yamada M, Takano H, Nakayama K, Itoh H, Suhara T.	精神神経科

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
69	International Journal of Neuropsychopharmacol. 2012; Oct 16:1-7.[ahead of print]	Occupancy of serotonin and norepinephrine transporter by milnacipran in patients with major depressive disorder: a positron emission tomography study with [11C]DASB and(S,S)-[18F] FMeNER-D2.	Nogami T, Takano H, Arakawa R, Ichimiya T, Fujiwara H, Kimura Y, Kodaka F, Sasaki T, Tanaka K, Suzuki M, Nagashima T, Mori T, Shimada H, Fukuda H, Sekine M.	精神神経科
70	PLoS One. 2012;7(9):e46488.	Effect of dopamine D2 receptor partial agonist antipsychotic aripiprazole on dopamine synthesis in human brain measured by PET with L-β-[11C]DOPA. tic resonance imaging study.	Itoh H, Takano H, Arakawa R, Takahashi H, Kodaka F, Takahata K, Nogami T, Suzuki M, Suhara T.	精神神経科
71	J Nucl Med. 2012 Jul;53(7):1065-73.	Quantification of dopamine transporter in human brain using PET with 18F-FE-PE2I.	Sasaki H, Itoh H, Kimura Y, Arakawa R, Takano H, Seki C, Kodaka F, Fujie S, Takahata K, Nogami T, Suzuki M, Fujiwara H, Takahashi H, Nakao R, Fukumura T, Varrone A, Halldin C, Nishikawa T, Suhara T.	精神神経科
72	Proc Natl Acad Sci U S A. 2012 Mar 13;109(11):4281-4.	Honesty mediates the relationship between serotonin and reaction to unfairness.	Takahashi H, Takano H, Canerer CF, Ideno T, Okubo S, Matsui H, Tamari Y, Takemura K, Arakawa R, Kodaka F, Yamada M, Eguchi Y, Murai T, Okubo Y, Kato M, Itoh H, Suhara T.	精神神経科
73	Psychopharmacology(Berl).2012 Jul;222(1):165-72.	Striatal and extrastriatal dopamine D2 receptor occupancy by the partial agonist antipsychotic drug aripiprazole in the human brain: a positron tomography study with[11C]raclopride and [11C]FLB457.	Takahata K, Itoh H, Takano H, Arakawa R, Fujisawa H, Kimura Y, Kodaka F, Sasaki T, Nogami T, Suzuki M, Nagashima T, Shimada H, Kato M, Kimura M, Suhara T.	精神神経科
74	Int Psychogeriatr. 2012 Nov.30:1-3.	A case in which mirtazapine reduced auditory hallucinations in a patient with Parkinson disease.	Nagata T, Shinagawa S, Tagai K, Nakayama K.	精神神経科
75	Dement Geriatr Cogn Disord. 2012;33(4):266-72.	Association between BDNF polymorphism (Val66Met)and executive function in patients with amnesic mild cognitive impairment or mild Alzheimer Disease.	Nagata T, Shinagawa S, Nukariya K, Yamada H, Nakayama K.	精神神経科
76	Dement Geriatr Cogn Disord Extra.2013;3:66-73.(DOI:10.1159/000348351)	Age-Related Association between Apolipoprotein E ε 4 and Cognitive Function in Japanese Patients with Alzheimer's Disease.	Nagata T, Shinagawa S, Kuerban B, Shibata N, Ohnuma T, Arai H, Nakayama K, Yamada H.	精神神経科
77	Biochem Biophys Res Commun. 2013 Jan 18;430(3):907-11.	Increase in the IgG avidity index due to herpes simplex virus type 1 reactivation and its relationship with cognitive function in amnesic mild cognitive impairment and Alzheimer's disease.	Kobayashi N, Nagata T, Shinagawa S, Oka N, Shimada K, Shimizu A, Tatebayashi Y, Yamada H, Nakayama K, Kondo K.	精神神経科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
78	Dement Geriatr Cogn Disord. 2012;34(3-4):190-7.	Association between neurotrophin-3 polymorphisms and executive function in Japanese patients with amnesic mild cognitive impairment and mild Alzheimer disease.	Kobayashi N, Nagata T, Shinagawa S, Nakayama R, Kondo K, Nakayama K, Yamada H.	精神神経科
79	Mol Ther. 2012; 20: 1924-31.	Administration of anti-CD3 antibodies modulates the immune response to an infusion of alpha-glucosidase in mice.	Ohashi T, Iizuka S, Shimada Y, Higuchi T, Eto Y, Ida H, Kobayashi H.	小児科
80	Mol Genet Metab. 2012; 107: 490-5.	Akt inactivation induces endoplasmic reticulum stress-independent autophagy in fibroblasts from patients with Pompe disease.	Nishiyama Y, Shimada Y, Yokoi T, Kobayashi H, Higuchi T, Eto Y, Ida H, Ohashi T.	小児科
81	Mol Genet Metab. 2012; 107: 711-5.	No accumulation of globotriaosylceramide in the heart of a patient with the E66Q mutation in the $\alpha$ -Galactosidase A gene.	Kobayashi M, Ohashi T, Fukuda T, Yanagisawa T, Inomata T, Nagaoka T, Kitagawa T, Eto Y, Ida H, Kusano E.	小児科
82	Am J Med Genet Part A. 2012; 158A: 75-7.	Trends in occurrence of twin births in Japan.	Kurosawa K, Masuno M, Kuroki Y.	小児科
83	Epilepsy Res. 2012; 99: 28-37.	PCDH19 Mutation in Japanese Females with Epilepsy.	Higurashi N, Shi X, Yasumoto S, Oguni H, Sakauchi M, Itomi K, Miyamoto A, Shiraiishi H, Kato T, Makita Y, Hirose S.	小児科
84	Allergol Int. 2012; 61(1): 75-82.	Hospitalizations Associated with Pandemic Influenza A (H1N1) 2009 in Asthmatic Children in Japan.	Katsunuma T, Matsui T, Iwata T, Nambu M, Kondo N.	小児科
85	Allergol Int. 2012.	Effects of Transdermal Tulobuterol in Pediatric Asthma Patients on Long-Term Leukotriene Receptor Antagonist Therapy: Results of a Randomized, Open-Label, Multicenter Clinical Trial in Japanese.	Katsunuma T, Fujisawa T, Nagao M, Akasawa A, Nomura I, Yamaoka A, Kondou H, Masuda K, Yamaguchi K, Ikeda M, Nishioka K, Adachi Y, Kurihara K.	小児科
86	Pediatr Cardiol. (in press)	Massive accumulation of glycosaminoglycans in the aortic valve of a patient with Hunter syndrome during enzyme replacement therapy.	Sato Y, Fujiwara M, Kobayashi H, Ida H.	小児科
87	Clin Pediatr Endocrinol. 2012; 21: 11-3.	A case of Allgrove syndrome with a novel IVS7+1G > A mutation in the AAAS gene.	Ikemoto S, Sakurai K, Saito Y, Miyata I, Katsumata N, Ida H.	小児科
88	Pediatr Neurol. 2012; 47: 147-9.	Molybdenum cofactor deficiency mimics cerebral palsy: differentiating factors for diagnosis.	Kikuchi K, Hamano S, Mochizuki H, Ichida K, Ida H.	小児科

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
89	Allergy Asthma Proc. 2012; 33(3): e28-e34.	Effects of the tulobuterol patch on the treatment of acute asthma exacerbations in young children.	Katsunuma T, Ohya Y, Fujisawa T, Akashi K, Imamura N, Ebisawa M, Daikoku K, Kondo N, Terada A, Doi S, Nishimuta T, Noma T, Hamasaki Y, Kurihara K, Masuda K, Yamada T, Yamada M, Yoshihara S, Watanabe K, Watanabe T, Kitabayashi T, Morikawa A, Nishima S.	小児科
90	Acta Dermato-Verereolog 92(5) 483-486	Questionnaires to Assess cgronicitch:A consensw Paper of the special:Interest Group of the International Forwn on the study of itel	WeissshaueE Gieler U,kupferJ. FurueM,Saeki H yosirovitls	皮膚科
91	Allergy 67(9) 1111-1117	Towards global cmsersws m outcome mesures for atologic elemc rescard:results meeting of the HOME II	schmitt J,scekiHwilliams H	皮膚科
92	J Invest Dermatol 132:1725-7	Reprograming of Human Hair Follicle Dermal papilla Cells into Incmcted Pluipolent stern cells.	Claire A,Munenar: I Angolau,christiano	皮膚科
93	J Dermatol 39(9)761-9	Impact of wtekimimab an health-related guality of life in Japanese patients with moderate to severe plase psoriasis:results from a randomized. Dowble-blind,plnebo-contuntled phase 2/3 tuial	Nakagawa H schenkel B. KatoIgarashaA	皮膚科
94	Surg Today	Reoperations for esophageal achalasia.	Omura N, Kashiwagi H, Yano F, Tsuboi K, Yanaga K.	外科
95	Dis Esophagus	Immunohistochemical study of the muscularis externa of the esophagus in achalasia patients.	Hoshino M, Omura N, Yano F, Tsuboi K, Kashiwagi H, Yanaga K.	外科
96	Acta Haematol 2013 129(1):45-47	Usage of Eltrombopag for Chronic Immune Thrombocytopenia as a Pretreatment for Splenectomy.	Uwagawa T, Misawa T, Furukawa K, Ito R, Futagawa Y, Yahagi Y, Aiba K, Yanaga K.	外科
97	Int J Cancer 2012 Jul 23.	Macrophage migration inhibitory factor induces epithelial to mesenchymal transition, enhances tumor aggressiveness and predicts clinical outcome in resected pancreatic ductal adenocarcinoma.	Funamizu N, Hu C, Lacy C, Schetter A, Zhang G, He P, Gaedcke J, Ghadimi MB, Ried T, Yfantis HG, Lee DH, Subleski J, Chan T, Weiss JM, Back TC, Yanaga K, Hanna N, Alexander HR, Maitra A, Hussain SP.	外科
98	J Hepatobiliary Pancreat Sci 2013 20(4): 448-53	Short rigid scope and stereo-scope designed specifically for open abdominal navigation surgery: clinical application for hepatobiliary and pancreatic surgery.	Onda S, Okamoto T, Kanehira M, Fujioka S, Suzuki N, Hattori A, Yanaga K.	外科



(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
99	Anticancer Res 2012 32(11):5121-6	Prognostic factors of unresectable pancreatic cancer treated with nafamostat mesilate combined with gemcitabine chemotherapy.	Furukawa K, Uwagawa T, Iwase R, Haruki K, Fujiwara Y, Gocho T, Shiba H, Misawa T, Yanaga K.	外科
100	Surg Today 2013 43(2):171-7	Nuclear factor $\kappa$ B activity correlates with the progression and prognosis of pancreatic cancer in a mouse model.	Furukawa K, Uwagawa T, Haruki K, Fujiwara Y, Iida T, Shiba H, Misawa T, Ohashi T, Yanaga K.	外科
101	Transplant Proc 2013 45(2):814-6	Living-related liver transplantation in Diego blood group disparity: a case report.	Futagawa Y, Wakiyama S, Matsumoto M, Shiba H, Gocho T, Ishida Y, Yanaga K.	外科
102	Int Surg 2012 97(4): 360-2	A case of successful conservative treatment for chylous ascites after living-related liver transplantation.	Shiba H, Wakiyama S, Gocho T, Ishida Y, Misawa T, Yanaga K.	外科
103	Transpl Int 2013 26: e34-5	Successfully end-to-end portal vein reconstruction using recipient's left internal jugular vein graft preserving the native portal vein for living-donor liver re-transplant patient with portal vein thrombosis.	Shiba H, Ikegami T, Yanaga K.	外科
104	Anticancer Res 2013 33(2): 705-9	Post-operative peak C-related protein predicts outcome of hepatic resection for hepatocellular carcinoma.	Shiba H, Furukawa K, Fujiwara Y, Futagawa Y, Haruki K, Wakiyama S, Ishida Y, Misawa T, Yanaga K.	外科
105	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2012;60(8):534-6	A case of bilateral multiple pulmonary chondroma: necessity of follow-up for Carney's triad.	Ishii H, Akiba T, Marushima H, Kanetsuna Y, Morikawa T.	外科
106	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2012;18(3):281-3	Thoracoscopic mediastinal lymph node dissection using an endoscopic spacer.	Akiba T, Marushima H, Hirano K, Morikawa T.	外科
107	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2012;Dec 26.[Epub ahead of print]	Computed Tomography Guided Thoracoscopic Segmentectomy for Lung Cancer with Variant Bronchus.	Akiba T, Morikawa T, Marushima H, Nakada T, Inagaki T, Ohki T.	外科
108	Interact Cardiovasc Thorac Surg.2012;15(5):925-7	Thymic haemangioma presenting with a left innominate vein aneurysm: insight into the aetiology.	Akiba T, Morikawa T, Hirayama S, Ohki T.	外科
109	日本外科系連合学会誌. 2012; 7 (127) :129-139	小葉中心性肺気腫の形態形成 弾性線維構築および血管構築変容の肺厚切標本および組織再構成による3次元観察	稲垣卓也, 三澤健之, 小村伸朗, 大熊誠尚, 芦塚修一, 尾高真, 杉本公平, 古田希, 柏木秀幸, 森川利昭, 矢永勝彦, 田中忠夫, 颯川晋, 大木隆生.	外科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
110	Breast J. 2012; 18(1): 85-7.	Detection of micrometastatic cells in peripheral blood and bone marrow fluid of stage I-III Japanese breast cancer patients and transition following anti-cancer drug treatment.	Takeyama H, Shimada T, Manome Y, Uchida K, Morikawa T.	外科
111	Annals of Vascular Diseases 2012; 5(1): 21-9	Technical Challenges in Endovascular Repair of Complex Thoracic Aortic Aneurysms.	Y Kanaoka, T Ohki, N Toya, A Ishida, H Tachihara, S, et al	外科
112	心臓 2012年;44巻8号:1003-8	胸腹部大動脈瘤治療に対する枝付きステントグラフト術-手術不能の壁に挑む-	大木隆生	外科
113	心臓 2012年;44巻8号:987	進歩する大動脈ステントグラフト	大木隆生	外科
114	心臓 2012年;44巻7号:983-5	大動脈ステントの適応と限界	金岡祐司, 大木隆生	外科
115	ICUとCCU 2012年10月号;36巻10号:707-17	大動脈と末梢動脈のステント-特集 集中治療医に必要な最新のステンティング療法の知識-	内田由寛, 金岡祐司, 大木隆生	外科
116	手術 2012年;66巻7号:967-72	Emergency Surgery-腹部大動脈瘤破裂-	金岡祐司, 大木隆生	外科
117	Coronary Intervention 2012年;8巻3号:85-9	デバイスラグ問題の原因とその解消に向けたPMDAと慈恵医大における取組み-日米共同治験の歩み-	大木隆生	外科
118	The Open Biomedical Engineering Journal 2012;6:98-103	Use of an injectable complex of beta-tricalcium phosphate granules, hyaluronate, and FGF-2 on repair of unstable intertrochanteric fractures.	Tanaka T, Kitasato S, Chazono M, Kukagae Y, Iida T, Mitsuhashi M, Kakuta A, Marumo K.	整形外科
119	Studies in Health Technology and Informatics 2012;176:202-205	Height velocity curves in female patients with idiopathic scoliosis.	Chazono M, Soshi S, Inoue T, Nakamura Y, Kida Y, Hashimoto K, Shinohara A, Marumo K, Kono K, Suzuki N.	整形外科
120	European Spine Journal 2012;21(8):1451-1458	Ethnic differences in pedicle and bony spinal canal dimensions calculated from computed tomography of the cervical spine: a review of the English-language literature.	Chazono M, Tanaka T, Kumagae Y, Sai T, Marumo K.	整形外科
121	Hip Joint 2012;38:64-69	高度脱臼位の二次臼蓋によるRAOと大腿骨減捻骨切り術を行った15歳女子の症例	大谷卓也, 川口泰彦, 藤井英紀, 上野豊, 為貝秀明, 加藤努, 羽山哲生, 丸毛啓史	整形外科
122	日本人工関節学会誌 2012;42:109-110	当科における感染人工股関節の治療成績	為貝秀明, 大谷卓也, 川口泰彦, 上野豊, 加藤努, 藤井英紀, 羽山哲生, 丸毛啓史, 杉山肇	整形外科
123	Sports Medicine, Arthroscopy, Rehabilitation, Therapy, Technology 2012;4:24	Incomplete joint side tear of the subscapularis tendon with a small fragment in an adolescent tennis player.	Kato S, Funasaki H, Kan I, Yoshida M, Kasama K, Marumo K.	整形外科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
124	肩関節 2012;36(2):599-602	腱板全層断裂に対する保存的治療におけるMRIの経時的変化	舟崎裕記,吉田衛,戸野塚久紘,加藤壮紀,笠間憲太郎,加藤基樹,丸毛啓史	整形外科
125	肩関節 2012;36(3):905-908	鏡視下腱板修復術における術前疼痛管理の重要性	戸野塚久紘,菅谷啓之,高橋憲正,河合伸昭,舟崎裕記,丸毛啓史	整形外科
126	Acta Neurochirurgica (Wien) 2013 Feb; 155(2):261-9	Multiple reimplantation technique for treatment of complex giant aneurysms of the middle cerebral artery: technical note.	Kato N, Prinz V, Finger T, Schomacher M, Onken J, Dengler J, Jakob W, Vajkoczy P.	脳神経外科
127	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases June 21(8):918.e1-918.e5:doi:10.1016	Multistage Indocyanine Green Videoangiography for the Convexity Dural Arteriovenous Fistula with Angiographically Occult Pial Fistula.	Kato N, Tanaka T, Suzuki Y, Sakamoto H, Arai T, Hasegawa Y, Abe T."	脳神経外科
128	World Neurosurgery 79(2)319-326	Initial Experience of Real-Time Intraoperative C-Arm Computed-Tomography-Guided Navigation Surgery for Pituitary Tumors.	Mori R, Joki T, Matsuwaki Y, Karagiozov K, Murayama Y, Abe T.	脳神経外科
129	Case Report in Neurol Medicine 10.1155/2012	Combined unilateral hemilaminectomy and thoroscopic resection of the dumbbell-shaped thoracic neurinoma:Case report.	Mori R, Inoshita N, Fujigasaki-Takahashi J, Joki T, Nishioka H, Abe T, Fujii T, Yamada S.	脳神経外科
130	ISRN Endocrinology 2013,Article ID 723432,8 pages	Clinicopathological Features of Growth Hormone-Producing Pituitary Adenomas in 242 Acromegaly Patients: Classification according to Hormone Production and Cytokeratin Distribution.	Tanaka T, Kato N, Aoki K, Nakamura A, Watanabe M, Tochigi S, Arai T, Hasegawa Y, Akiba N, Marushima H, Abe T.	脳神経外科
131	Case Repot in Neurological Medicine doi:10.11551/2012/121470	Multiple Pulmonary Metastases following Total Removal of a Bilateral Parasagittal Meningioma with Complete Occlusion of the Superior Sagittal Sinus: Reprt of a case	Nakano M, Tanaka T, Nakamura A, Watanabe M, Kato N, Arai T, Hasegawa Y, Akiba T, Marushima H, Kanetsuna Y, Abe T	脳神経外科
132	Journal Stroke Cerebrvascdis 21(4):333-337,2012	Surgical treatment of a sylvian-middle fossa dural artriovenous fistula draining into the basal vein of Rosenthal with frontotemporal craniotomy-A case report.	Tanaka T, Kato N,Arai T, Hasegawa Y, Abe T.	脳神経外科
133	日創外固定骨延長会誌 24:67~71, 2013.2.	イリザロフミニ創外固定器を用いた手指関節拘縮の治療経験	松浦慎太郎,曾我まゆ子,林 淳也,宮脇剛司,内田満.	形成外科
134	PEPARS 73:73~78, 2013.1.	下肢静脈瘤へのMDCTの応用	林 淳也.	形成外科
135	頭頸部癌 38(1):90~95, 2012.4.	舌根部の再建形態に関する検討	寺尾保信、田中誠児、谷口浩一郎、内田育宏 <sup>1</sup> 、大山定男 <sup>1</sup> (1:がん・感染症センター都立駒込病院口腔外科)	形成外科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
136	胸部外科2012;65:280-6.	特集:弁形成術の工夫と手術成績:粘液変性僧帽弁閉鎖不全症に対する弁形成術-弁尖切除の早期・遠隔成績の検討.	坂本吉正、儀武路雄、松村洋高、山城理仁、山本裕介、橋本和弘.	心臓外科
137	心臓 2013;45:33-8.	超高齢者(80歳以上)心臓大血管手術のリスク評価と手術成績の検討.	坂本吉正、儀武路雄、松村洋高、山城理仁、山本裕介、田中圭、橋本和弘.	心臓外科
138	Eur J Cardiothorac Surg 2013;43:441.	Congenitally corrected transposition of the great arteries with coexisting aortic valve stenosis in a 77-year-old woman.	Matsumura Y, Kawahito K, Nakamura K, Hashimoto K.	心臓外科
139	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2012;60:837-9.	Technique of managing periprosthetic leakage due to mitral prosthetic valve endocarditis: report of a case.	Kawada N, Sakamoto Y, Nagahori R, Yoshitake M, Naganuma H, Inoue T, Shinohara G, Hashimoto K.	心臓外科
140	Open Journal of Obstetrics and Gynecology	Effect of sophrology on perinatal stress monitored by biopyrrin.	Michiko Suzuki, Seiji Isonishi, Osamu Morimoto, Masahisa Ogawa, Kazuhiko Ochiai.	産婦人科
141	The journal of obstetrics and gynaecology research	Risk factors of treatment discontinuation due to uterine bleeding in adenomyosis patients treated with dienogest.	Nagata C, Yanagida S, Okamoto A, Morikawa A, Sugimoto K, Jikei Gynecology Staffs, et al.	産婦人科
142	International journal of oncology	Hypoxia promotes glycogen synthesis and accumulation in human ovarian clear cell carcinoma.	Iida Y, Aoki K, Asakura T, Ueda K, Yanaihara N, Takakura S, Yamada K, Okamoto A, Tanaka T, Ohkawa K.	産婦人科
143	placenta	Multiple injections of anti-mouse beta-2glycoprotein 1 antibody induce FcR gamma-dependent fetal growth restriction (FGR) in mice.	Kawaguchi R, Nunomura S, Umehara N, Nikaido T, Tanaka T, Huppertz B, Ra C.	産婦人科
144	International journal of oncology	Cytokine gene expression signature in ovarian clear cell carcinoma.	Yanaihara N, Anglesio MS, Ochiai K, Hirata Y, Saito M, Nagata C, Iida Y, Takakura S, Yamada K, Tanaka T, Okamoto A.	産婦人科
145	The journal of obstetrics and gynaecology research	Pilot study of CD147 protein expression in epithelial ovarian cancer using monoclonal antibody 12C3.	Ueda K, Yamada K, Kiyokawa T, Iida Y, Nagata C, Hamada T, Saito M, Aoki K, Yanaihara N, Takakura S, Okamoto A, Ochiai K, Ohkawa K, Tanaka T.	産婦人科
146	Journal of Medical Ultrasonics	Usefulness of ultrasonography and MRI for diagnosis of fetal pulmonary agenesis: case report and review of the literature.	Yuki I, Tomohiro T, Atsuko K, Kuniharu T, Nagayoshi U, Rie K, Seiji W, Kuniaki O, Takekazu O, Tadao T, Aikou O.	産婦人科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
147	The journal of obstetrics and gynaecology research	Long-term survival in patients with clear cell adenocarcinoma of ovary treated with irinotecan hydrochloride plus cisplatin therapy as first-line chemotherapy.	Kunito S, Takakura S, Nagata C, Saito M, Yanaihara N, Yamada K, Okamoto A, Sasaki H, Ochiai K, Tanaka T.	産婦人科
148	The journal of obstetrics and gynaecology research	Feasibility study of paclitaxel plus carboplatin in patients with endometrial cancer: a Japan Kanto Tumor Board study (JKTB trial).	Yamada K, Tanabe H, Imai M, Jobo T, Kudo K, Fujiwara H, Nagata C, Furuya K, Suzuki M, Ochiai K, Tanaka T, Yasuda M.	産婦人科
149	Scientific Reports	ASBEL, an ANA/BTG3 antisense transcript required for tumorigenicity of ovarian carcinoma.	Yanagida S, Taniue K, Sugimasa H, Nasu E, Takeda Y, Kobayashi M, Yamamoto T, Okamoto A, Akiyama T.	産婦人科
150	Low Temperature Medicine 2012;38(3):69-72	Small cancer in solitary kidney: partial nephrectomy vs MRI-guided Percutaneous cryoablation.	Hatano T, Ishii G, Endo T, Mogami T, Sunakawa Y, Harada J, Kishimoto K and Egawa S.	泌尿器科
151	Int. Jur. Urol 2012;19:429-36	Transient receptor potential A1 receptor-mediated neural cross-talk and afferent sensitization induced by oxidative stress: Implication for the pathogenesis of interstitial cystitis/bladder pain syndrome.	Furuta A, Suzuki Y, Hayashi N, Egawa S and Yoshimura N.	泌尿器科
152	Pathology International 2012; 62(11):742-8	Expression of ERG oncoprotein is associated with a less aggressive tumor phenotype in Japanese prostate cancer patients.	Kimura T, Furusato B, Miki J, Yamamoto T, Hayashi N, Takahashi H, Kamata Y, van Leeders GJ, Visakorpi T, Egawa S.	泌尿器科
153	神経眼科. 2012;29:189-95	下垂体炎を伴った視神経炎の2例	小笠原幹英, 敷島敬悟, 酒井勉	眼科
154	Clin Exp Optom. 2013;96:126-129.	Spectral domain optical coherence tomography and angiographic findings in multifocal posterior pigment epitheliopathy treated with low-fluence photodynamic therapy.	Kuroyanagi K, Sakai T, Kasai K, Tsuneoka H.	眼科
155	Br J Ophthalmol. 2013;97:338-342.	Health- and vision-related quality of life in patients receiving infliximab therapy for Behcet uveitis.	Sakai T, Watanabe H, Kuroyanagi K, Akiyama G, Okano K, Kohno H, Tsuneoka H.	眼科
156	臨床眼科. 2013;67:603-607.	インフリキシマブ中止後、ぶどう膜炎の再燃と神経ペーチェットの顕在化を認め、再導入した1例.	岩寄茜, 酒井勉, 谷口洋, 森田里香, 常岡寛.	眼科
157	J Neurochem. 2012;121:146-156.	Retinal cone and rod photoreceptor cells exhibit differential susceptibility to light-induced damage.	Okano K, Maeda A, Chen Y, Chauhan V, Tang J, Palczewska G, Sakai T, Tsuneoka H, Palczewski K, Maeda T.	眼科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
158	Mol Vis. 2012;18:3079-3086.	Photoreceptor rescue of pigment epithelium-derived factor-impregnated nanoparticles in Royal College of Surgeons (RCS) rats.	Akiyama G, Sakai T, Kuno N, Kimura E, Okano K, Kohno H, Tsuneoka H.	眼科
159	Clin Ophthalmol. 2012;6:321-326.	Use of DNA microarray analysis in diagnosis of bacterial and fungal endophthalmitis.	Sakai T, Kohzaki K, Watanabe A, Tsuneoka H, Shimadzu M.	眼科
160	Mol Vis. 2013;213-219.	Genetic polymorphisms associated with endothelial function in nonarteritic anterior ischemic optic neuropathy.	Sakai T, Shikishima K, Matsushima M, Tsuneoka H.	眼科
161	Optom Vis Sci 2012 ; 89 : 684-691.	Autosomal dominant occult macular dystrophy with an RP1L1 mutation (R45W).	Hayashi T, Gekka T, Kozaki K, Ohkuma Y, Tanaka I, Yamada H, Tsuneoka H.	眼科
162	Doc Ophthalmol 2012 ; 124 : 249-254.	Improvement of central visual function following steroid pulse therapy in acute zonal occult outer retinopathy.	Kitakawa T, Hayashi T, Takashina H, Mitooka K, Gekka T, Tsuneoka H.	眼科
163	Ophthalmology 2013 ; 120 : 431.e1-6.	Novel mutations in enhanced S-cone syndrome.	Kuniyoshi K, Hayashi T, Sakuramoto H, Nakao A, Sato T, Utsumi T, Tsuneoka H.	眼科
164	Proc Natl Acad Sci USA. 2013; 110(3): 260-69.	Human trichromacy revisited.	Horiguchi H, Winawer J, Dougherty RF, & Wandell BA.	眼科
165	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2013. Mar 2.	One-year results of reduced fluence photodynamic therapy for central serous chorioretinopathy: the outer nuclear layer thickness is associated with visual prognosis.	Ohkuma Y, Hayashi T, Sakai T, Watanabe A, Tsuneoka H.	眼科
166	Jpn J Ophthalmol 2012; 56(5): 441-4.	Effect on corneal shape of suturing the scleral wound during 23-gauge vitreous surgery.	Shibata T, Watanabe A, Takashina H, Tsuneoka H.	眼科
167	Documenta Ophthalmologica. 2013; Mar 8.	Multifocal electroretinographic evaluation of macular function in acute posterior multifocal placoid pigment epitheliopathy.	Aoyagi R, Hayashi T, Gekka T, Kozaki K, Tsuneoka H.	眼科
168	Clinical and Experimental Ophthalmology 2013. Feb 28.	Femtosecond laser-induced macular hole followed by spectral-domain optical coherence tomography.	Cho A, Sakai T, Akiyama G, Tsuneoka H.	眼科
169	Laryngoscope in press.	Comparison between endoscopic and microscopic stapes surgery.	Kojima H, Komori M, Chikazawa H, Yaguchi U, Chujyou K, Moriyama H.	耳鼻咽喉科
170	Clin Genet 2012; 82(6): 514-520.	Mutations in the NOG gene are commonly found in congenital stapes ankylosis with symphalangism, but not in otosclerosis.	Usami S, Abe S, Nishio S, Sakurai Y, Kojima H, Tono T, Suzuki N.	耳鼻咽喉科
171	Auris Nasus Larynx 2012; 39(6): 583-587.	Long-term evaluation after endoscopic sinus surgery for chronic pediatric sinusitis with polyps.	Tsukidate T, Haruna S, Fukami S, Nakajima I, Konno W, Moriyama H	耳鼻咽喉科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
172	Int Arch Allergy Immunol. 2012; 158 Suppl 1:47-50	Elevated levels of interleukin-33 in the nasal secretions of patients with allergic rhinitis.	Asaka D, Yoshikawa M, Nakayama T, Yoshimura T, Moriyama H, Otori N.	耳鼻咽喉科
173	Auris Nasus Larynx 2012; 39(5):484-489.	Impact of residual ethmoid cells on postoperative course after endoscopic sinus surgery for chronic rhinosinusitis.	Okushi T, Mori E, Nakayama T, Asaka D, Matsuwaki Y, Ota K, Chiba S, Moriyama H, Otori N	耳鼻咽喉科
174	Neuroscience 2012; 26; 215:209-216.	Inwardly rectifying potassium channel Kir4.1 is localized at the calyx endings of vestibular afferents.	Udagawa T, Tatsumi N, Tachibana T, Negishi Y, Saijo H, Kobayashi T, Yaguchi Y, Kojima H, Moriyama H, Okabe M	耳鼻咽喉科
175	Int Arch Allergy Immunol 2012; 161 Suppl 2:138-146	The expression of Protease-activated receptors in chronic rhinosinusitis	Yoshida T, Matsuwaki Y, Asaka D, Hama T, Otori N, Moriyama H	耳鼻咽喉科
176	Am J Rhinol Allergy 2012; 26(3):172-6.	Identification of chronic rhinosinusitis phenotypes using cluster analysis.	Nakayama T, Asaka D, Yoshikawa M, Okushi T, Matsuwaki Y, Moriyama H, Otori N.	耳鼻咽喉科
177	Am J Rhinol Allergy 2012; 26(5):405-8.	Endoscopic medial maxillectomy with preservation of inferior turbinate and nasolacrimal duct.	Nakayama T, Asaka D, Okushi T, Yoshikawa M, Moriyama H, Otori N.	耳鼻咽喉科
178	Japanese journal of clinical oncology 2012; 42(10):927-933.	Phase II feasibility trial of adjuvant chemoradiotherapy with 3-weekly cisplatin for Japanese patients with post-operative high-risk squamous cell carcinoma of the head and neck.	Kiyota N, Tahara M, Okano S	耳鼻咽喉科
179	Japanese journal of clinical oncology 2012; 42(8):691-696.	Induction chemotherapy with docetaxel, cisplatin and S-1 followed by proton beam therapy concurrent with cisplatin in patients with T4b nasal and sinonasal malignancies.	Okano S, Tahara M, Zenda S	耳鼻咽喉科
180	BMC Cancer 2012; 20;12:416.	Copy number amplification of the PIK3CA Gene is associated with poor prognosis in non-lymph node metastatic head and neck squamous cell carcinoma.	Suda T, Hama T, Kondo S, Yuza Y, Yoshikawa M, Urashima M, Kato T, Moriyama H	耳鼻咽喉科
181	Brain Dev.2012.Vol.34.No.5.349-53.	Evaluation of Ability for Basic Movement Scale for Children Type T (ABMS-CT) in disabled children.	Hashimoto K, Miyamura K, Honda M.	リハビリテーション科
182	Magn Reson Imaging. 2012 Jan 26.	Voxel- and atlas-based analysis of diffusion tensor imaging may reveal focal axonal injuries in mild traumatic brain injury - comparison with diffuse axonal injury.	Kasahara K, Hashimoto K, Abo M, Senoo A.	リハビリテーション科
183	2012.Vol.35.No.2.146-52.	Botulinum toxin type A injection, followed by home-based functional training for upper limb hemiparesis after stroke.	Takekawa T, Kakuda W, Taguchi K, Ishikawa A, Sase Y, Abo M.	リハビリテーション科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
184	Eur Neurol 2012;68:199-208	Effectiveness of Low-Frequency rTMS and Intensive Speech Therapy in Poststroke Patients with Aphasia: A Pilot Study Based on Evaluation by fMRI in Relation to Type of Aphasia.	Abo M, Kakuda W, Watanabe M, Morooka A, Kawakami K, Senoo A.	リハビリテーション科
185	Acta Neurol Scand. 2013 Jan;127(1):26-30.	Effect of low-frequency rTMS on motor neuron excitability after stroke.	Kondo T, Kakuda W, Yamada N, Shimizu M, Hagino H, Abo M.	リハビリテーション科
186	Eur J Oral Sci 2013; 121: 13-20	Distribution of nerve growth factor, pro-nerve growth factor, and their receptors in human salivary glands.	Næsse EPq, Schreurs O, Messelt E, Hayashi K, Schenck K.	歯科
187	Breast Cancer. 2012;10:376-8.	Survey on recognition of post-mastectomy pain syndrome by breast specialist physician and present status of treatment in Japan.	Kojima K.Y, Kitahara M, Matoba M, Shimoyama N, Uezono S.	麻酔部
188	Chemical biology & drug design. 2012;80(5):771-4.	Superior Analgesic Effect of H-Dmt-D-Arg-Phe-Lys-NH(2) ([Dmt(1)]DALDA), a Multifunctional Opioid Peptide, Compared to Morphine in a Rat Model of Neuropathic Pain.	Shimoyama M, Schiller p W, Shimoyama N, et al.	麻酔部
189	Anesthesiology. 2012;117(5):1044-50.	Does general anesthesia increase the diagnostic yield of endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration of pancreatic masses?.	Ootaki C, Stevens T, Vargo J, You J, Shiba A, et al.	麻酔部
190	Anesthesiology. 2012;117:389-98.	Ondansetron Reverses Antihypersensitivity from Clonidine in Rats after Peripheral Nerve Injury.	Hayashida K, Kimura M, Yoshizumi M, Hobo S, et al.	麻酔部
191	Anesthesia and analgesia. 2012;115(6):1309-14.	Intraoperative hydroxyethyl starch 70/0.5 is not related to acute kidney injury in surgical patients: retrospective cohort study.	Endo A, Uchino S, Iwai K, Saito K, Sanui M, Takinami M, Uezono S.	麻酔部
192	Clinical Kidney Injury. 2012;5(2):187-91.	The meaning of the blood urea nitrogen/creatinine ratio in acute kidney injury.	Uchino S, Bellomo R, Goldsmith D.	麻酔部
193	International Journal of Artificial Organs. 2012;35(7):525-30.	Low-dose continuous renal replacement therapy for acute kidney injury.	Fujii T, et al.	麻酔部
194	Anaesthesia and Intensive Care. 2012;40(4):726-8.	Bronchiolitis obliterans presenting as prolonged ventilator dependence in a patient with paraneoplastic pemphigus.	Saito S, et al.	麻酔部
195	Journal of Anesthesia. 2012;26(4):592-4.	Incidence and neurological outcomes of aneurysm rupture during interventional neuroradiology procedures in a hybrid operating suite.	Yamakawa K, Kiyama S, Murayama Y, Uezono S.	麻酔部
196	Breast Cancer	Survey of recognition of post-mastectomy pain syndrome by breast specialist physician and present status of treatment in Japan.	Kojima K, Kitahara M, Matoba M, Shimoyama N, Uezono S.	ペインクリニック



(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
197	日集中医誌	ICU退室後の予期せぬ院内死亡に関する危険因子の検討	山下和人、松田祐典、内野滋彦、遠藤新大、岩井 健一、齋藤敬太、鹿瀬陽一、瀧浪将典	集中治療部
198	ANESTHESIA & ANALGESIA	Intraoperative Hydroxyethyl Starch 70/0.5 Is Not Related to Acute Kidney Injury in Surgical Patients: Retrospective Cohort Study	Arata Endo, Shigehiko Uchino, Kennichi Iwai, Keita Saito, Masamitsu Sanui, Masanori Takinami, Shoichi Uezono	集中治療部
199	Scand J Gastroenterol	Novel quantitative perfusion analysis with contrast-enhanced harmonic EUS for differentiation of autoimmune pancreatitis from pancreatic carcinoma.	Imazu H, Kanazawa K, Mori N, Ikeda K, Kakutani H, Sumiyama K, Hino S, Ang TL, Omar S, Tajiri H.	内視鏡科
200	Gastroenterology	In vivo imaging of enteric neuronal networks in humans using confocal laser endomicroscopy.	Sumiyama K, Kiesslich R, Ohya TR, Goetz M, Tajiri H.	内視鏡科
201	厚生労働科学研究費補助金(医療技術実用化総合研究事業)平成23年度総括・分担研究報告書. 2012;109-115.	経頭蓋超音波併用脳血栓溶解法の再開通時間評価に関する研究.	持尾聰一郎, 小川武希, 三村秀毅.	救急部
202	厚生労働科学研究費補助金(医療技術実用化総合研究事業)平成23年度総括・分担研究報告書. 2012;116-120.	【救急医療における経頭蓋超音波併用療法の有効性】急性脳梗塞治療迅速化に関する遠隔画像診断治療補助システムの利用と救急医療.	小川武希, 村山雄一, 高尾洋之.	救急部
203	Transfus Apher Sci. 2012 47(2), 139-43.	The hematological and clinical effects of X-ray contrast medium contaminating autologous blood for transfusion purposes.	Tasaki T, Miura Y, Yamada Y, Kato Y, Hoshi Y.	輸血部
204	Human Pathology	Characteristic tubulointerstitial nephritis in IgG4-related disease.	Yamaguchi Y(Yamaguchi Pathol Lab), Kanetsuna Y, Honda K(Tokyo Woman's Med Univ), Yamanaka N(Tokyo Kidney Res Inst), Kawano M (Kanazawa Univ), Nagata M(Tsukuba Univ).	病院病理部

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
205	Annals of Surgery	Multicenter study for optimal categorization of extramural tumor deposits for colorectal cancer staging	Ueno H1), Mochizuki H(1.National defense Med Univ), Shirouzu K(Kurume Univ), Kusumi T(Keiyukai sapporo Hosp), Yamada K(Tanaka Hosp), Ikegami M, Kawachi H(Tokyo Med Dental Univ), Kameoka S(Tokyo Women's Med Univ), Ohkura Y2), Masaki T(2.Kyorin Univ), Kushima R(Shiga Univ), Takahashi K(Komagome Hosp), Ajioka Y(Niigata Univ), Hase K2), Ochiai A(2.Self Defence Forces Central Hosp), Wada R(Juntendo Univ), Iwaya K3), Nakamura T3), Sugihara K(3.Tokyo Med Univ).	病院病理部
206	Toxicologic Pathology	Atypical leydig cell hyperplasia in adult rats with low T and high LH induced by prenatal Di(n-butyl) phthalate exposure.	Wakui S1), Takahashi H, Mutou T1), Shirai M1), Jutabha P1), Anzai N1), Wempe MF1), Kansaku N1), Hano H, Inomata T1), Endou H(1.Azabu Univ).	病院病理部
207	Breast Cancer	Possible clinical cure of metastatic breast cancer: lessons from our 30-year experience with oligometastatic breast cancer patients and literature review.	Kobayashi T, Ichiba T, Sakuyama T, Arakawa Y, Nagasaki E, Aiba K, Nogi H, Kawase K, Takeyama H, Toriumi Y, Uchida K, Kobayashi M, Kanehira C, Suzuki M, Ando N, Natori K, Kuraishi Y.	病院病理部
208	Intestine	【転移をきたす小さな大腸癌-本当に悪性の大腸癌とは?】「小さな大腸癌」の特徴(病理の立場から)。	廣岡信一, 池上雅博, 野村浩一, 原田徹, 古里文吾, 小山大河, 片木宏昭, 佐藤峻, 柳澤春華。	病院病理部
209	東京慈恵会医科大学雑誌	口腔領域重層扁平上皮由来の腫瘍性病変のdermokineの発現に関する研究。	田邊陽子1), 羽野寛, 市ノ川義美(1.帝京大), 松井毅(京都大)。	病院病理部
210	東京慈恵会医科大学雑誌	小葉中心性肺気腫の形態形成 弾性線維構築および血管構築変容の肺厚切標本および組織再構成による3次元観察。	稲垣卓也, 羽野寛, 森川利昭。	病院病理部

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
211	INTESTINE	小型大腸癌におけるリンパ節転移危険因子の検討.	廣岡信一, 池上雅博, 野村浩一, 原田徹, 古里文吾, 小山大河, 片木宏昭, 佐藤峻, 柳沢春華.	病院病理部
212	Modern pathology : an official journal of the United States and Canadian Academy of Pathology, Inc	Detection of ERG in Japanese transition zone prostate cancer.	Furusato B, Takahashi H, Kimura T, Miki J, Mizukami S, Okayasu M, Yamamoto T, Kuruma H, Egawa S, Hano H.	病院病理部
213	Modern pathology : an official journal of the United States and Canadian Academy of Pathology, Inc	Incidence and correlation of AKT and ERG expressions in Japanese prostate cancer.	Takahashi H, Furusato B, Kimura T, Okayasu M, Mizukami S, Egawa S, Hano H.	病院病理部

合計 213件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## (様式第 12)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院長 丸毛 啓史	
管理担当者氏名 (担代表者)	診療に関する 諸記録	診療各科責任者、各病棟・各外来看護師長 放射線部技師長、薬剤部長、他関係部署責任者
事務部長 植松 美知男	管理運営に関する 諸記録	事務部長、薬剤部長、総務部長、大学事務部長 財務部長、他関係部署責任者

	保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書	病院日誌 ・院長室、管理課、 業務課 他 診療記録 ・診療情報室 ・フィルム係 他	病院日誌は、各部署にて年度別に保管。 診療記録関連は、患者別、入院外来別に 診療情報室にて管理。 但し、記録の種類によっては異なる。	
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課 臨床研修センター 教員・医師人事室	
	高度の医療の提供の実績	診療各科、 管理課	
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	診療各科、 管理課	
	高度の医療の研修の実績	診療各科、 管理課、 臨床研修センター	
	閲覧実績	管理課、業務課	
	紹介患者に対する医療提供 の実績	診療各科	
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳簿	管理課、業務課、 薬剤部	
第規 則第 一 号に 掲げ る十 一 条の 第一 項各 号及 び第 九 条の 二十 二第 一 項	医療に係る安全管理の ための指針の整備状況	医療安全推進室 及び関係各部署	医療安全管理指針に基づき年1回以上、 指針の改定等の必要性について審議す る
	医療に係る安全管理のた めの委員会の開催状況	医療安全推進室	毎月、セーフティマネジメント委員会 を開催 医療安全推進室「委員会」ファイル
	医療に係る安全管理のた めの職員研修の実施状況	医療安全推進室	年度計画をを立て、医療安全関係研修 会等を企画医療安全推進室「教育研修 」ファイル
	医療機関内における事故 報告等の医療に係る安全 の確保を目的とした改善 のための方策の状況	医療安全推進室	セーフティマネジメント委員会、セーフ ティマネージャ会議にて分析、指導を 実施。重大事例には事例検討会を開催 し分析、再発防止策を検討 医療安全推進室「管理」ファイル
	専任の医療に係る安全管 理を行う者の配置状況	医療安全推進室	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針による
	専任の院内感染対策を 行う者の配置状況	感染対策室	東京慈恵会医科大学附属病院 感染対策指針による
	医療に係る安全管理を 行う部門の設置状況	医療安全推進室	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針による
	当該病院内に患者から の安全管理に係る相談 に適切に応じる体制の 確保状況	看護部 (患者相談窓口担 当)	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針による

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室 東京慈恵会医科大学附属病院 感染対策指針
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室 毎月、感染対策委員会を開催。感染対策室「感染対策委員会」ファイル
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全推進室 感染対策室 年度計画を立て、感染対策関係研修会等を企画。医療安全推進室「教育研修」ファイル
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室 感染対策委員会にて報告、検討 院内ラウンドの実施 感染対策室ファイル
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医療安全推進室 東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針による
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室 年度計画を立て、医薬品安全使用関係研修会等を企画。医療安全推進室「教育研修」ファイル
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全推進室 東京慈恵会医科大学附属病院 セーフティマネジメントマニュアル 医薬品安全使用のための業務手順書 実施状況調査ファイル
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全推進室 医薬品安全使用のための業務手順書 「病棟部門・手術部門・集中治療部門・外来部門・薬剤部・輸血部等」ファイル
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全推進室 東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針による
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室 年度計画を立て、医療機器安全使用関係研修会等を企画
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部、放射線部、中央検査部、リハビリテーション科 セーフティマネジメントマニュアル内「医療機器の保守点検・安全使用に関する管理手順書」に基づく所定書式にて分類		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部、放射線部、中央検査部、リハビリテーション科 各部署ごとに保管管理 中央管理機器については、機器格納庫書棚等に保管管理		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	院長 丸毛 啓史	
閲覧担当者氏名 (担当代表者)	診療に関する諸記録	診療各科責任者、各病棟・各外来看護師長、放射線部技師長、薬剤部長、他関係部署責任者
事務部長 植松 美知男	管理運営に関する諸記録	事務部長、薬剤部長、総務部長、大学事務部長、他関係部署責任者
閲覧の求めに応じる場所	附属病院会議室	

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	4 件
閲覧者別	医 師	延	件
	歯 科 医 師	延	件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	4 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	54.6%	算定期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		22,767人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16,744人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		5,147人
	D：初診の患者の数		65,031人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療安全管理に関する基本的な考え方</li><li>2. 医療安全管理のための組織・体制</li><li>3. 医療に係わる安全管理のための教員研修</li><li>4. 医療問題発生時の対応</li><li>5. 医療事故発生時の対応</li><li>6. 患者相談窓口の設置</li><li>7. 患者との情報共有</li><li>8. 附属4病院の連携強化（情報の共有）</li></ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療事故防止対策の検討及び研究</li><li>2. 医療事故の分析及び再発防止策の検討</li><li>3. 医療事故防止のための提言</li><li>4. 医療安全推進のための啓発、教育、広報及び出版</li><li>5. 医薬品、医療機器の安全管理及び院内感染の防止</li><li>6. 医療安全の推進に関すること</li><li>7. スタットコール(院内救急)に関すること</li><li>8. 院内迅速対応システム(RRS)に関すること</li></ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 67 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. セーフティマネジメント基礎研修会</li><li>2. 4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム</li><li>3. 転倒・転落予防のための勉強会</li><li>4. 褥瘡セミナー</li><li>5. 派遣・委託職員対象セーフティマネジメント研修会</li><li>6. BLSコース／ICLSコース</li><li>7. チーム医療構築ワークショップ</li><li>8. 医療機器の安全使用のための講習会</li><li>9. Team STEPPS講習会</li></ol>	

<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院長、医療安全管理部長、副部長及び医療安全推進室等の管理部門への報告体制の確立と組織的対応の実施</li> <li>2. ネットワークパソコンによる医療問題発生報告システムの運用</li> <li>3. 緊急セーフティマネジメント委員会での事実確認及び組織的対応の実施</li> <li>4. セーフティマネジメント委員会及びフロアセーフティマネージャー会議、医療安全推進室を通じた再発防止策の周知と徹底</li> <li>5. 医療問題分析ツールRCA分析による根本原因の分析と対策立案</li> <li>6. 問題種別のワーキンググループによる再発防止対策の立案と実践</li> <li>7. 医療安全院内ラウンドによる評価、検証、フィードバックの実施</li> <li>8. 関東信越厚生局及び東京都福祉保険局、日本医療機能評価機構への適切な報告</li> <li>9. 所轄警察署への適切な報告</li> <li>10. 異状死届出ガイドラインの整備とモデル事業への参画</li> <li>11. 医療事故等に関する判定委員会の設置と医療事故等公表基準の整備</li> </ol>	<p>(有) 無</p>
<p>⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況</p>	<p>(有) (2名) ・ 無</p>
<p>⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況</p>	<p>(有) (1名) ・ 無</p>
<p>⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任 (8) 名 兼任 (12) 名</li> <li>・ 活動の主な内容：</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インシデント・アクシデント等の情報の収集、分析、予防・改善策の立案及び実施</li> <li>2. 教職員への安全に関する教育・研修の企画、実施</li> <li>3. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載の確認と助言</li> <li>4. 改善策実施のための各部門への依頼、調整、助言、コンサルテーション</li> <li>5. 改善策実施後の評価</li> <li>6. セーフティマネジメントマニュアルの整備・管理</li> <li>7. セーフティマネジメント委員会の資料及び議事録の作成及び保存、その他セーフティマネジメント委員会の庶務に関すること</li> <li>8. 医療安全連絡会議の運営に関すること</li> <li>9. 院内感染対策に関する連携</li> </ol>	<p>(有) ・ 無</p>
<p>⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>	<p>(有) ・ 無</p>



(様式第 13-2)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 院内感染対策に関する基本的な考え方</li><li>2. 院内感染対策のための組織</li><li>3. 院内感染対策のための教職員に対する研修</li><li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li><li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li><li>6. 当該指針の閲覧</li><li>7. 院内感染対策推進のために必要なその他の基本方針</li></ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 菌検出状況報告と対策の検討</li><li>2. 抗菌薬使用状況報告と対策の検討</li><li>3. 感染に関する問題発生報告と対策の検討</li><li>4. 血液体液汚染発生状況報告と対策の検討</li><li>5. 感染対策のための啓発、教育、広報に関する検討</li><li>6. 感染対策指針およびマニュアルの改訂、運用に関する検討</li></ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年108回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 感染対策ベーシックレクチャー</li><li>2. 耐性菌の感染対策</li><li>3. 抗菌薬適正使用について</li><li>4. 針刺し事故対策</li><li>5. 研修医オリエンテーション：感染対策について</li><li>6. 新入職看護師に対する技術研修</li><li>7. 委託業者対象感染対策勉強会（新型インフルエンザ・ノロウイルス）</li><li>8. ガフキーカンファレンス（結核患者の画像データ等を題材とした症例検討会）</li><li>9. 医局会・病棟等への訪問レクチャー</li></ol>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p style="text-align: right;">(有・無)</p> <p>感染対策上重要な病原体が検出されると、検査室よりただちに感染対策室へ報告される。また、画像診断部医師による読影の際、結核が否定できない所見が発見された場合も感染対策室に報告されることとなっている。病棟などで、感染症の疑いが発生した場合にも、ただちに感染対策室へ報告され、担当者が対応する体制となっている。さらに、全病棟に病棟ICTを立ち上げ、感染対策室と定期的にミーティングを開催している。</p>	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年8回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>新人薬剤師研修会 (H24. 4) 「医療安全における医薬品の安全管理について」</p> <p>新人看護師研修会 (H24. 5) 「くすりの安全な使用について」、「注射薬混合調製の基礎知識」</p> <p>医薬品・医療機器安全使用セミナー (H24. 7) 「薬の安全な使用について」</p> <p>看護師注射薬ミキシング講習会 (H24. 8) 「注射薬混合調製の基礎知識」</p> <p>薬剤部全体連絡会 (H24. 9) 「周術期に休薬が必要な薬剤について②」</p> <p>医薬品安全使用セミナー (H24. 10) 「慢性疼痛の治療と薬剤使用について」</p> <p>医薬品・医療機器安全セミナー (H24. 11) 「医療用麻薬の安全な使用のために」</p> <p>医薬品・医療機器安全セミナー (H25. 2) 「抗がん剤の特徴と投与時の注意点について」</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有 ・ 無 )</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>今年度は、「放射性医薬品の安全な取扱いに関する項目」、「医薬品使用後のはいきについて」、「注射薬の廃棄について」について、業務手順書の改定を行い、その後手順書(チェックリストとして使用可)を関係部署へ配布し実施状況の確認を行い、記録した。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ハイリスク薬の掲載品目を見直し、新規更新し、院内に周知した。 セーフティマネジメント委員会の一部として、薬剤関連ワーキンググループを開催し、入院持参薬確認について、院内共通の運用基準を定めマニュアルとして掲載することとした。また化学療法実施に関する同意書を見直し、血管外漏出に関する項目を追記した。 薬剤部医薬品情報室および病棟薬剤師と連携し、メーカー、インターネットからの情報収集、部外講習会への参加をするなどして情報の収集を行い、必要に応じて院内への情報提供を行なっている。</p>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無												
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年328回												
<p>・ 研修の主な内容：平成24年度実績</p> <p>5月18日(金) 輸液ポンプ、シリンジポンプの正しい取り扱いについて 5月29日(金) 補助循環装置の安全管理について 6月1日(金) 輸液ポンプ、シリンジポンプの正しい取り扱いについて 6月15日(金) 輸液ポンプ、シリンジポンプの正しい取り扱いについて 7月6日(金) 医薬品・医療機器安全講習会(薬の安全使用について) "医療機器「医療ガス、ボンベの安全使用を学ぶ」" 9月14日(金) 人工呼吸器の正しい取り扱いについて 10月19日(金) 酸素療法(インスピロン、ナザール、トキマック等)の正しい取り扱いについて 11月16日(金) 医薬品・医療機器安全講習会(麻薬の取り扱いについて) "特殊薬剤への輸液ポンプと輸液ルートの使用法について" 12月7日(金) 心電図モニタ、除細動器の正しい取り扱いについて 1月18日(金) 血液浄化について 2月15日(金) 医薬品・医療機器安全講習会(抗がん剤の特徴と投与時の注意点について) "補助循環装置について IAPB・PCPS・人工心肺"</p> <p>医療機器安全講習会(開催回数、出席者数)</p> <table border="1"><tr><td>① 放射線部</td><td>40回(前年比：+12回)</td><td>(参加者：329名 前年比：+146名)</td></tr><tr><td>② 中央検査部</td><td>18回(前年比：-51回)</td><td>(参加者：36名 前年比：-11名)</td></tr><tr><td>③ リハ科</td><td>5回(前年比：+1回)</td><td>(参加者：32名 前年比：+17名)</td></tr><tr><td>④ 臨床工学部</td><td>265回(前年比：-7回)</td><td>(参加者：2870名 前年比：+325名)</td></tr></table> <p><b>総計：328回(前年比：-22回) (参加者総数：3267名 前年比：+477名)</b></p> <p>内「医療機器安全使用のための講習会」11回(前年比：+1回) (参加者：1080名 前年比：+97名)</p>		① 放射線部	40回(前年比：+12回)	(参加者：329名 前年比：+146名)	② 中央検査部	18回(前年比：-51回)	(参加者：36名 前年比：-11名)	③ リハ科	5回(前年比：+1回)	(参加者：32名 前年比：+17名)	④ 臨床工学部	265回(前年比：-7回)	(参加者：2870名 前年比：+325名)
① 放射線部	40回(前年比：+12回)	(参加者：329名 前年比：+146名)											
② 中央検査部	18回(前年比：-51回)	(参加者：36名 前年比：-11名)											
③ リハ科	5回(前年比：+1回)	(参加者：32名 前年比：+17名)											
④ 臨床工学部	265回(前年比：-7回)	(参加者：2870名 前年比：+325名)											
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況													
<p>・ 計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>中央検査部、リハビリテーション科、臨床工学部関連(各外来、ICU、CCU、母子センターなどの特殊病棟含む全病棟、手術室、血液浄化部、救急部、内視鏡部など)それぞれの部門に設置(配置)されている各種機器について、日常点検(始業点検、使用中点検、使用後点検)を行う。</p> <p>☆保守点検を実施している主な医療機器 人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、輸液ポンプ、シリンジポンプ 上記機種については、医療機器安全管理責任者が代表を務める「医療機器安全管理作業部会にて進捗状況を適宜報告している。</p>													

④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備
  - ・ その他の改善のための方策の主な内容：
- ( 有 ) ・ 無 )

1) 安全性情報

① 診療連絡速報 (発行なし)

② 診療連絡報 (10 回発行)

平成24年5月 NO. 24-(29)B

「気管チューブの取り扱い時の注意について」

平成24年6月 NO. 24-(58)B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (5月分)」

平成24年8月 NO. 24-(82)B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告」

平成24年10月 NO. 24-(132)B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (9月分)」

平成24年11月 NO. 24-(137)B

「気管切開チューブ取り扱い時の注意について」

平成24年12月 NO. 24-(155)B

「臨床工学部中央管理機器在庫状況の閲覧方法について」

平成24年12月 NO. 24-(171)B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (11月分)」

平成25年1月 NO. 24-(180)B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (12月分)」

平成25年2月 NO. 24-(200)B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告」

平成25年3月 NO. 24-(223)B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (2月分)」

③ お知らせ (発行なし)

2) 医療機器安全管理作業部会情報

① 医療機器安全管理情報 (9 回発行)

平成24年4月9号

「人工呼吸器使用中における注意点」

平成24年5月10号

「水銀血圧計の更新にともなう入れ替え時の注意点」

平成24年6月11号

「心電図モニター-のデータ保存に関して」

平成24年7月12号

「ブラッドアクセス用留置カテーテル挿入患者のMRI検査に関して」

平成24年9月13号

「使用済み電池の廃棄方法」

平成24年11月14号

「人工呼吸器で使用する加温加湿器トラブル対策」

平成24年12月15号

「磁性体を含む身体装置医療材料について」

平成25年1月16号

「磁性体を含む身体装置医療材料について第2報」

平成 25 年 3 月 17 号

「電動式ネブライザーの正しい使用方法」

3) 医療機器の不具合情報の発信（発生時随時）

自主回収報告数（発生件数）

合計：8件（クラスⅠ：2件、クラスⅡ：6件、クラスⅢ：0件、計8件）

院内報 通知日	No	PMDA 通知日	ク ラ ス	項目
5月29日	24-3	5月23日	Ⅱ	体内固定用組織ステープル ロティキュレータ
7月31日	24-6	7月25日	Ⅰ	植込み型除細動器・ペースメーカーリード
9月25日	24-9	9月24日	Ⅱ	半自動・一時的使用ペーシング機能付除細動器
11月6日	24-11	10月26日	Ⅱ	血漿交換用・血液浄化用血液回路
報告なし		11月20日	Ⅲ	遠心型血液成分分離装置用血液回路・血液成分分離装置 用回路（コープスペクトラ用）
12月5日	24-13	12月3日	Ⅱ	単回使用自己血回収キット・ディデエコ ATS 回路セッ ト
1月30日	24-16	1月29日	Ⅰ	植込み型除細動器・ペースメーカーリード
2月25日	24-18	2月4日	Ⅱ	成人用人工呼吸器・トリロジー
3月5日	24-19	2月28日	Ⅱ	新生児・小児用人工呼吸器 インファントフローサイパ ップ